

特集 歯科・歯科口腔外科

病院歯科として 成すべきこと

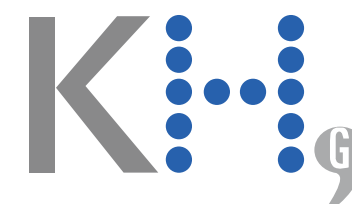
開院から半年 阿南川島クリニック

平成28年度事業計画

脳外科外来スタート
徳島医学会賞受賞
熊本医療支援

第6回 川島病院 市民公開講座

2015-2016 Photo Report



Kind 優しい

Honest 誠実な

Growing 伸びゆく

社会医療法人 川島会

●川島病院

●川島透析クリニック ●鴨島川島クリニック ●鳴門川島クリニック ●脇町川島クリニック ●阿南川島クリニック

社会福祉法人 飛鳥

●ケアハウス ●在宅介護支援センター ●デイサービスセンター ●ヘルパーステーション

川島ホスピタルグループ広報誌 第14号 2016年10月発行 発行／川島ホスピタルグループ

〒770-8548 徳島市北佐古一番町1-39 TEL.088-631-0110 FAX.088-631-5500

企画・編集／川島ホスピタルグループ広報委員会 川島ホスピタルグループホームページ <http://www.khg.or.jp> デザイン・印刷・製本／太陽高速印刷(有)



表紙写真：吉野川のラフティング
来年(2017年)は吉野川を舞台にラフティングの世界大会が行われます。日本でラフティングの世界大会が開催されるのは初めてで、今後ますます注目の集まるウォータースポーツになりそうです。
(撮影／川内秀喜)

Contents

Kawashima Hospital Group Magazine

2 歯科・歯科口腔外科 病院歯科として成すべきこと

12 開院から半年 阿南川島クリニック

20 事業計画

21 脳外科外来スタート 本藤秀樹

22 徳島医学会賞を受賞して 西谷真明

23 徳島県医療救護班として 熊本医療支援 笠井泰子

24 主な行事

25 BEST SHOT 今年の一枚 撮影・川島 周 理事長

26 第6回 川島病院 市民公開講座
健やかに暮らすために ～骨と筋肉を守ろう～

31 2015-2016 Photo Report
健康・福祉フェスタ・慰安旅行・部活・サークル紹介・とくしまマラソン・阿波踊り・BBQ

43 2015-2016年資料編



K ind 優しい

H onest 誠実な

G rowing 伸びゆく

私たちの病院の理念

- 1 患者さんをはじめ、関係する方々との信頼関係を築きます。
- 2 病院経営の質の向上に努め、良質で効率的かつ組織的な医療を提供します。
- 3 地域社会の健康および福祉の増進に貢献することを使命とします。

私たちの病院の基本方針

私たちの病院は

- 1 患者さんや家族の方々との信頼関係に基づいた、患者さんの立場に立った医療を提供します。
- 2 公正な医療の提供と医療の質の向上に努めます。
- 3 腎泌尿器疾患と糖尿病の診断と治療に総合的に携わる病院として地域の皆様に信頼していただけるよう、日々全力を傾注します。
- 4 患者さんに安心して医療を受けていただけるような良質な医療環境医療体制を構築します。
- 5 地域社会の一員として、また社会的存在として行動し、その責任を果たします。



歯科 歯科口腔外科

病院歯科として 成すべきこと

川島病院は腎臓内科を中心に糖尿病内科や循環器科、泌尿器科などの様々な診療科があり、有病者の方の歯科診療を行っています。歯科は2008年4月に開設され、今年で8年目を迎えました。診療内容はう蝕、歯周病の治療、義歯の作製等の一般的な歯科治療を行っていますが、口腔ケア、摂食嚥下障害への対応など病院歯科ならではの診療を行っている事が大きな特徴です。その主な有病者歯科治療についてご紹介します。

有病者治療に多く携わり

ご病気で外来通院されている患者さん、入院患者さんのようないわゆる有病者の方は、病気の治療を受けられていると、口の中の事は後回しになりがちです。またそういった状態での歯科治療への不安が大いにあると思います。川島病院では血液透析あるいは内科・受診のため当病院内に入院されている患者さんが最も多く、できるだけ通院日に合わせて、歯科を受診していただいています。入院患者さんも、車椅子・ストレッチャーで診療室へ来られます。診療室は、車椅子・ストレッチャーが入れるように十分のスペースを取っており、専用の診療用チェアも備えています。





それぞれの歯科治療

透析治療を受けている患者さん

川島病院に通院・入院されている方で、最も多いは、慢性腎不全により透析治療を行っている患者さんです。透析患者さんは虫歯や歯周病の方が多く見られます。水分の摂取制限がありま

感染のリスクが高く、骨の代謝異常のある透析患者さんにはおすすめできません。すでにインプラント治療が終わっている方は、定期的な管理を受けることが大切です。

透析治療には抗凝固剤を使用しており、抜歯などの外科処置を行う際には、透析日を避けるなど診療日や時間などの特別の配慮が必要となります。また歯科インプラント治療は、骨にインプラント体を埋め込む手術ですので、

川島病院では、腎代替療法である腎臓移植手術を多く行っています。歯科では移植を受ける患者さんを手術前後に診察させて頂いています。手術後に免疫抑制剤などの薬を使用しますので、特に術前には虫歯の治療や抜歯を行うておく必要な場合があります。

医長

川島友一郎

Yuichiro Kawashima

DENTIST



透析治療患者

糖尿病患者

抗血栓薬服用中の患者

糖尿病患者の歯科治療

慢性腎不全で透析治療が必要となる患者さんの一番の原因は、糖尿病です。合併症の1つである糖尿病性腎症から慢性腎不全へと移行していきま

ントロールの状況を評価して、必要な歯科治療方針を決めていきます。

当院では、各科が連携して糖尿病患者さんの治療にあたる、糖尿病教育というプログラムがあります。歯科では、歯科疾患と糖尿病との関連性について説明し、必要であれば歯科治療をお勧めしています。かかりつけ歯科医院がある患者さんは、糖尿病内科の診察状況をかかりつけ医にお知らせ頂き、継続受診して頂くようお願いしています。

血糖が高値だから治療できない、低値だから気にする必要がないという単純な考え方は誤りです。現在の血糖コ



血液を固まりにくくする薬(抗血栓薬)を服用している患者さん

血をサラサラにする薬を飲んでいるから抜歯ができない

抜歯をするときは薬を休薬しないとできないので、どうしたよいか

抜歯した時に血が止まらなくて大変だった



血液を固まりにくくする薬を服用している患者さんに対して、抜歯等の出血を伴う処置(観血的処置)を行う場合、以前であれば、抗血栓薬の服用を一時中止して、観血的処置を行っていました。最近、日本口腔外科学会、日本循環器学会が作成したガイドラインでは、抗血栓薬を継続した状態で、観血的処置を行うことが推奨されています。当科でも、患部の止血処置を十分施すことにより、抗血栓薬を中止することなく観血的処置を行っていただきます。自分勝手に薬を中止してしまうと、梗塞がおきてしまう可能性があります。



みなさんもご存じのように、我が国は、超高齢化社会に向かっており、要介護状態にある高齢者数が増加傾向にあります。一般に、高齢者は、体力や認知機能が徐々に低下し、要介護状態に向かって行きます。そのため、早期に医療介入することにより、高齢者の体力や認知機能の低下を遅らせ、ひいては、「生活の質」の向上あるいは維持ができると期待されています。ただし、早期に医療介入するためには、体力や認知機能

「フレイル」とは？

能が低下し始める時期を、周囲の人々が認識する必要があります。

近年、「日本老年医学会」は、「フレイル」「Frailty」という概念を提唱しています。すなわち、「高齢期に生理的予備能が低下することでストレスに対する脆弱性が亢進し、生活機能障害、要介護状態、死亡などの転帰に陥りやすい状態」で、筋力の低下により動作の俊敏性が失われて転倒しやすくなるような身体的問題のみならず、認知機能障害やうつなどの精神・心理的問題、独居や経済的困窮などの社会的問題を含む概念」として、「フレイル」を提唱しています。

なお、「Frailty」の日本語訳として「虚弱」が使われたことがあります。が、「虚弱」では①「加齢に伴って不可逆的に老い衰えた状態」という印象がある、②身体的、精神・心理的、社会的側面のニュアンスを十分に表現できていない、との理由により、「Frailty」に対する日本語訳として、カタカナで「フレイル」と表記することが決まったようです。

まずは、みなさんの頭の片隅にでも「フレイル」という言葉を置いていただくことにより、高齢者への早期介入のきっかけになればと思っています。

超高齢化社会に突入し、変わる医療

歯科診療部長

板東 高志

Takashi Bando



DENTIST





早期の歯科介入が必要



「オーラル・フレイル」とは？

1989年(平成元年)より厚生省(現在、厚生労働省)と日本歯科医師会は、「8020(ハチマルニイマル)運動」を推進しています。この運動は、「20以上の歯があれば、食生活にほぼ満足することができる」という考えに基づいて始められたものです。その後、日本歯科医師会は、「8020運動」に加え、「歯・口の機能の低下」を表し、「フレイル(前述)」にも繋がる概念として「オーラル・フレイル」を提唱・発信しています。

また、飯島らは、「柏スタディー」の結果より、「フレイル」の前段階として、「オーラル・フレイル」を位置付けるとともに、口の中における軽微な兆候の発見や食環境の改善について、早期の歯科介入が重要であることを述べています[日本老年医学雑誌、52(4):336-342(2015) / 日本補綴歯科学会誌、7(2):92-101(2015)]。

「フレイル」への流れを「ドミノ倒し」に例えますと、図のようになります。つまり、加齢により最初のドミノが倒れると、次々とドミノが倒れます。そして最終的に、「自立生活」のドミノが倒れると、「要介護」の状態になります。しかし、「オーラル・フレイル」の段階において、「歯科介入」というストッパーを入れることができれば、「口腔状態」のドミノが倒れるのを防ぐことができます。

当院に入院あるいは通院をされている患者さんは、基礎疾患を有しており、残念ながら、大部分の方が、「フレイル」あるいは「要介護」の状態にあります。そのため、歯科介入を行っても、目に見えらるような効果が表れませんが、「生活の質の低下の減速」には、多少なりともお手伝いできていと思っています。

また、「オーラル・フレイル」の段階にある患者さんについては、「歯科介入がある程度の効果をもたらす」との前提の下に、早期の歯科介入に行っています。ただし、「個々の患者における早期の歯科介入の有用性」を評価することはできませんので、あくまで「早期の歯科介入」は、「歯科の心構え」とご理解ください。

当科の歯科治療は、摂食機能の維持！

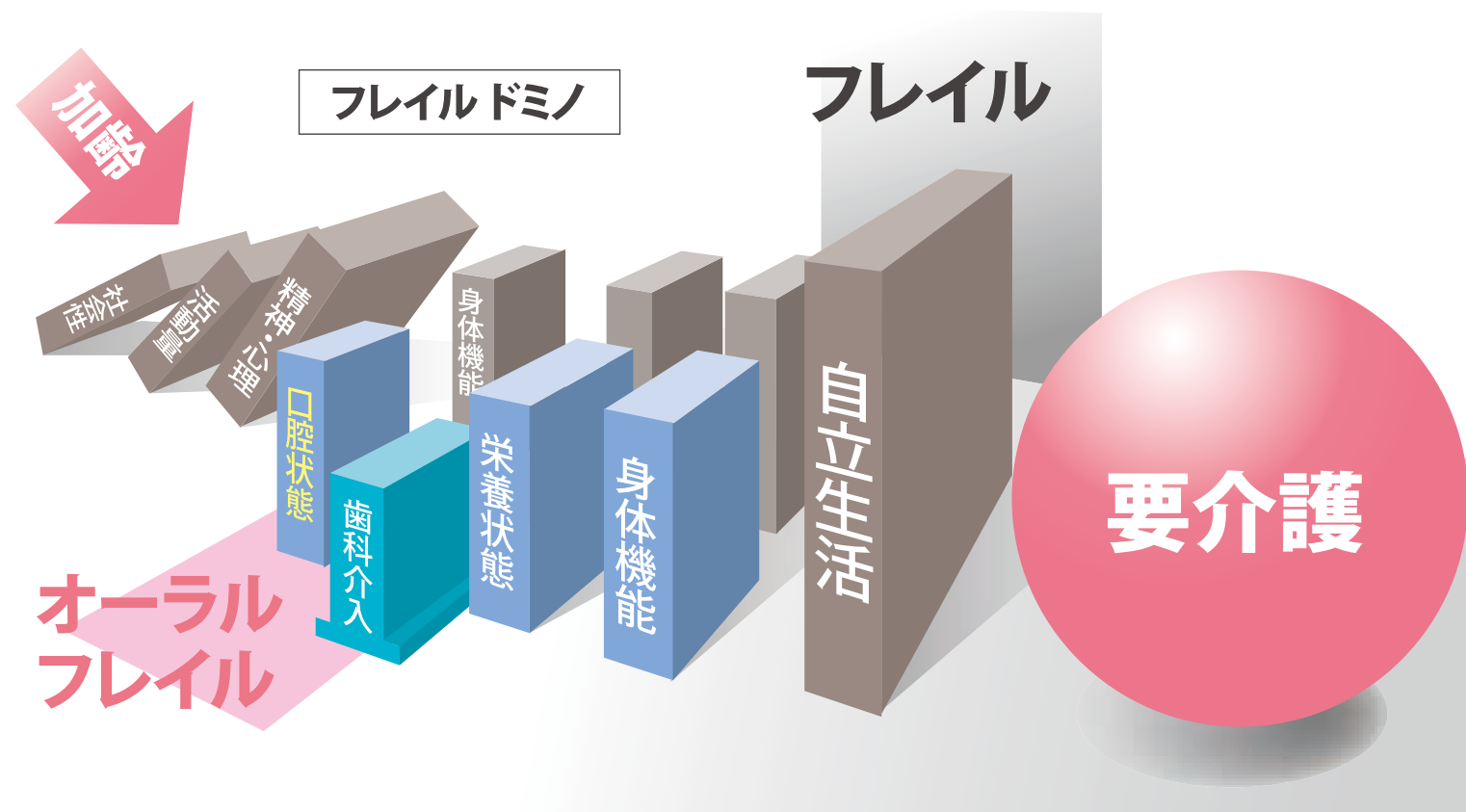
当科では、う蝕や歯周病に対する治療および義歯の装着など通常の歯科治療が、摂食機能の維持に役立っているという見解に立脚して、診療に当たっています。さらに、すでに嚥下機能の低下している患者さんに対しては、咀嚼機能を改善するための通常の歯科治療に加えて、嚥下に関連する部位(舌・頬・口唇・頸部)への簡単な訓練も併用しています。

「摂食」とは、「口から食物を摂る(とる)こと」であり、「摂食機能」とは、摂食にかかわるすべての働き(機能)です。また、摂食のためには、「咀嚼(食物をかみ砕くこと)」や「嚥下(食物を飲み込むこと)」などの「連の運動」が必須です。

健康な方であれば、う蝕や歯周病のために咀嚼機能が低下したとしても、嚥下機能にはあまり影響しません。しかし、心血管・脳血管疾患など基礎疾患を有する方は、近い将来、「オーラル・フレイル」へ移行する可能性が高く、咀嚼機能の低下が、連続した動作である嚥下機能の低下にも繋がっていくようです。したがって、

「from D to D」をモットーに

最後に、「病院歯科」である当科では、「D からDまで」をモットーに掲げています。最初の「D」は”Decay”(う蝕)、次の「D」は”Dysphagia”(嚥下障害)の頭文字を取ったものです。すなわち、基礎疾患を有する方々に対して、う蝕から嚥下障害まで、包括的な診療を行うことにより、摂食機能の維持に努めています。



新入職員



歯科衛生士・社会福祉士
薦田 茜

好きなこと：おいしいものを食べに行くこと。まったり過ごすこと。

4月から川島病院歯科でお世話になっております。

入職してからあっという間に3か月が経ってしまいました。学生の頃とは違い、資格を持った専門職としての責任があり、不安でいっぱいですが、やりがいも感じています。

現在は、歯科の診療室での業務を、先生や歯科衛生士の先輩方にご指導頂きながら行っています。診療の準備や片付け、診療補助、患者さんの口腔内のメインテナンス、受付業務など、たくさんの業務があり、毎日が目まぐるしく過ぎて行っています。先輩方は、さらに病棟口腔ケアや訪問診療、委員会活動、研究などを行い、新人である私たちの指導までしてくださり、本当に尊敬しています。これから、まだまだ覚えることがたくさんありますが、優しく教えてくださる先輩がいるので心強いです。先輩方を目指して、日々努力していきたいと思っています。

失敗することも多々ありますが、早く一人前の歯科衛生士になって、お役に立てよう頑張ります。

新入職員



歯科衛生士・社会福祉士
藤倉みき

好きなもの：焼肉、カフェに行くこと

私は今年の4月から川島病院の歯科で歯科衛生士として勤務しています。まだまだ失敗すること、上手くいかないことも多々ありますが、先生方、先輩の歯科衛生士の方々に指導していただきながら1人前の歯科衛生士になれるよう日々頑張っています。

また、私は歯科衛生士として働く傍ら週5回ローラースケートフィギュアの練習に励んでいます。5歳から18年間ローラースケートを続けており、前回中国で開催されたアジア大会では女子シニアフリーで優勝し、スペインで開かれた世界大会にも出場しました。普段は仕事を終えてから週5回、夜10時まで練習をし、練習がない日にはジムにも通っています。また同じクラブの後輩への指導にも取り組んでおり、指導することの難しさ、その子が上手くなった時のやりがいも感じています。仕事との両立は大変なこともありますが、様々な方に支えられ大好きなローラースケートを続けられることに感謝し、歯科衛生士として、またスケーターとして日々レベルアップできるよう頑張りたいと思います。



▲ローラースケートフィギュアの試合風景



受付 和泉 裕子
趣味・好きなこと
ゴルフ、いちごを食べること

「和泉さん、おはよう。今日はCTでこつちきたんよ。そのあとは心電図もあつて検査のはしごじゃ。」
「和泉さん、こんにちは。病院の中はよう冷やんなあ。体冷やさんように気をつけよ。」

歯科前の出入り口を利用される方々からこのような温かいお声掛けを毎日のようにいただいています。それは歯科を受診される患者さんだけではありません。川島病院を訪れ歯科前入口を利用される方々から、あいさつを交わすだけでなく、名前を覚えて呼んで下さる、笑顔で話しかけて下さる、そんな親しみをもつて接していただけているという実感を純粹にうれしく、そしてありがたく思いながら、川島病院を訪れる方々からのありがたうや笑顔に触れられることにやりがいを感じています。

今でこそ、このような信頼関係を築けるまでになりましたが、歯科受付としてカウンターに立ち始めたころはパソコン操作を覚えるのに夢中になり過ぎ周囲に意識を向け忘れたり、患者さんの名前がすぐに出てこなかったり、挨拶の音が届いていなかったりとうまくいかなかったことも多く、そのうえ、歯科が川島病院に併設されてから未だ三年しかたつておらず認知度もかなり低い状態であったこともあり、歯科前入口を利用される方々が素通りしていくこともしばしばありました。そんな

なうしろ姿をみながら、わたしは考えました。わたしはこの歯科受付窓口から、川島病院を訪れる方々へどのようなことが提供できるのか、訪れる方々はそのようなことを望んでいるのか、不安に感じているのか、患者さんに対して病院の中で一番最初の顔になるのが受付であり、一番最後の顔になるのも受付です。わたしにできること、病院を訪れた方々を最初に笑顔でお迎えし、最後に笑顔でお見送りするこれだと思ひ実践しました。

始めて1年後、歯科の認知度が上がったように感じました。挨拶を返して下さる方が増えました。2年後、笑顔で挨拶を返して下さる方が増えました。話しかけて下さる方が増えました。3年後、名前を覚えて下さる方が増えました。歯科受付以外の場所でもお声をかけていただけるようになりました。そして4年後「透析終わりはほんまにしんどいやけどなあ、帰りに和泉さんの笑顔で癒されるんよ。いつもありがたう」。不安を抱えて来院された方々に寄り添って、笑顔や会話などの対応で少しでも不安を和らげて笑顔になれるお手伝いが出来ればと思っていたので、本当にうれしい一言をいただきました。

今でも「わたしはこの歯科受付窓口から、川島病院を訪れる方々へどのようなことが提供できるのか、訪れる方々はそのようなことを望んでいるのか、不安に感じているのか」の考えを常に頭の片隅に置きながら今の対応はその方の思いに添えていたのだろうか、この方の気持ちにちゃんと耳を傾けられているか、相手に寄り添った対応を日々心がけて、今日も歯科受付窓口で、川島病院を訪れる方々へ笑顔でお迎えし、笑顔でお見送りをしています。



医長 川島友一郎

歯学博士
徳島県立城ノ内高校卒業
朝日大学歯学部卒業
徳島大学大学院修了

2020年東京オリンピックは、開会式を国立競技場で家族と一緒にみたい。

歯科治療は歯を削る、詰める、歯型をとるなど、一見何かのアートみたいだと思える有名なミュージシャンが話していました。また世間の皆さんからは、今も昔も痛い事をされるところという印象ではないでしょうか。歯科は確かに毎日のように歯を切削したり、歯肉に注射をするような、いわば外科です。また治療を短期的に捉えがちで、時間や費用を要する事をしつかり受け止められる方は多くありません。とりわけ有病者の方にとつて、歯科治療で大変な治療や制限された日常生活を直接的に、劇的に回復できるわけではありませんので、なおさら歯科が遠のいてしまします。当院歯科では、透析患者をはじめとする有病者の患者さんへの歯科治療、摂食嚥下障害へのアプローチを積極的に行う事によって、口腔内・口腔周囲の機能改善し、全身的にも精神的にも好影響をおよぼすことが出来るようになるよう診療を行っています。そしてそれが病院歯科を担う我々の使命と考えます。

その結果、人間の食べるというその楽しみを取り戻して頂く事、歯科診療の目的はそこにあると思います。

患者に寄り添う歯科として

short 歯科衛生士のショート・ショート short



歯科衛生士
高石 和子

今回の歯科特集に際し、日々の業務で重要な役割を担う歯科衛生士さんへ、お話を聞きました。

Q：川島病院における歯科衛生士の業務は主にどのような内容ですか。

山崎：歯科外来診療と病棟で行う口腔ケアが代表的です。

田村：外来診療の内容は、みなさんが想像する町の歯科医院とほぼ同じです。

歯科医師のアシスタント業務や歯科衛生士がメインとなって行う歯周治療が主になります。

高石：ただ、当科を利用してくださっている患者さんの大半が腎疾患や糖尿病などの疾患を抱えています。そこで問診や、服薬状況、採血結果などを医師と共に確認しています。必要に応じて歯科医師の指示のもと血圧測定を行うなど、患者さんの全身体態には気を配るよう心がけています。

山崎：全身状態が悪いことで、歯周病がなかなかよくならない方もいます。炎症が強い時は、無理な歯石除去は行わず、セルフケア（歯磨きなど）歯面清掃を徹底するなど、根気のい

る時期もあります。そのような時に、患者さんのモチベーションを保ちながら、歯科治療に継続してきてもらえるかよく話し合っています。



歯科衛生士・社会福祉士
山崎明日香



Q：歯周治療はどういう手順で進めているんですか。

田村：パノラマX線写真、口腔内写真、歯周組織検査を行い、歯周病の有無、重症度を確認していきます。口腔内写真と歯周組織検査は歯科衛生士が行い、検査結果を患者さんに説明します。検査結果を説明する際は、患者さんが分かりやすい言葉を選ぶよう心がけています。

高石：昔に比べて、治療から予防する時代になってきましたが、やはり痛くないと来ない、中には痛くても我慢して来ない方もしばしばいます。そういった方に歯科衛生士の立

場から、いかに歯（口腔）が大切であるかという事を伝えていく必要があると感じています。



歯科衛生士・社会福祉士
田村 佑季

山崎：そして、よく聞かれるのが「もっと早く来とったら良かった」、「若い時から大事にしたら良かった」という言葉です。ただ、私は、「ここで気づいてくれて本当に良かったです」、「これからは今ある歯を大事にしていきたいと思います」、「一緒に頑張っていきたいと思います」と、お声かけさせてもらっています。

Q：かつての歯科に苦手意識を持っている方が多いのでしょうか。

田村：そうですね、歯の重要性が伝わりにくい事に加えて、歯科に来ると痛い思いをするのではないかと、う方も多いかなと思います。少しでも患者さんがリラックスできる声かけや診療室内の雰囲気作りは努力して行っています。

Q：近年、「口腔ケア」という言葉をよく耳にするんですが。

高石：入院患者さんに対して行う口腔ケアは、歯磨きや粘膜ケアをして、お口の中をきれいにするという事だけでなく、呼吸器感染症の予防や

口腔機能の維持・回復、全身の健康および社会性の改善などを目的としています。

山崎：意思疎通が困難な方も多くいますが、患者さんとのコミュニケーションの図り方には気を配っています。入院中ベッド上で過ごすことが多いなか、私達が行う口腔ケアが1日のなかの1つの刺激になったり、楽しみに結びつけば良いなと思っています。

田村：患者さんに安全な医療を提供できるよう、今後も口腔ケアや摂食嚥下に関する研修会、歯科治療に関する研修会などに参加し、日々学び業務に役立てたいです。

高石：今年度から歯科衛生士は新卒が2名入職し、計5名で活動しています。今まで自分達が川島病院で勤務して学んだことを後輩に引き継ぎながら、さらに活躍の幅を広げていきたいです。



阿南川島クリニック

徳島県南部の地で、 より一層の医療連携を図り、 地域住民の方に 気兼ねなく立ち寄れる クリニックを目指して

海の守り神(阿波三峰)に囲まれた地で、地域がかりつけ医としての医療活動を充実し、職員一同、心を二つにして業務に邁進します。



院長 宮本 弘

2016年2月1日阿南川島クリニックは阿南市羽ノ浦町岩脇神代地80番1に開院しました。

羽ノ浦町は、古来より海の守り神として地域住民に信仰されている阿南の津峰山、勝浦の中津峰山、小松島の日峰山のほぼ中央で那賀川の北岸に位置しています。これらの山は阿波三峰と呼ばれ、海上から見るとき、その位置関係で船の位置を知ることができました。また山頂には神社、寺を建て、常夜灯を毎日灯しております。近世前期の航海は地乗りと呼ばれる方法(陸地を離れないで見える範囲の島、岬、山を目視しながら航海する)で行われ、周りの見えにくい夜間にはこれら常夜灯が紀伊水道を航行する船にいかに関立ったかは想像に難くありません。阿波三峰が海の守り神との所以も容易に

理解できます。(阿波三峰について 海上保安庁 より引用)

一方これら山頂より紀伊水道を眺めれば、遠く紀伊半島の山々、近くは阿南の海岸線が見渡せます。特に津峰山頂より見下ろした橋湾は岬、島々が美しく点在し、阿波の松島とも呼ばれております。

クリニックのある岩脇地区には、徳島県屈指の桜の名所である岩脇公園があり、中でも400mの桜のトンネルは圧巻の眺めであり、多くの人々が桜見物に訪れております。

このように羽ノ浦町は近くに山、川、海があり、加えて穏やかな気候にも恵まれ、他の要因も加わつてのこととも思われますが、徳島県では数少ない人口増加の地区となっております。

前置きが長くなりましたが、阿南川島クリニックは開業して6か月が過ぎました。

川島病院グループの一員として慢性腎疾患の治療、特に透析治療を診療の大きな柱とし日々の診療活動を行っております。このことは近隣の医療機関にも少しずつ認知され、紹介の患者さんも徐々に増えてまいりました。有難く感謝している次第です。開院時10名であった維持透析患者数は7月11日現在19名となっております。これからも地域医療機関と連携を密にし、血液透

析療法などを通して、県南部の医療環境がより充実されるよう努力していきたいと考えております。

一方、従前より行っておりました地域がかりつけ医としての医療活動も引き続き行っていきたいと考えております。健康、疾病についての相談で気兼ねなく立ち寄れ、また病診・診診連携のもと幅広い疾病に対応できるプライマリケアを行えるクリニックを可能な限り続けたいと思います。これらを続けることにより阿南川島クリニックが地域住民の方々に、今以上に親しみのもてるクリニックと評価して頂けるよう努力したいと思います。

さて、開業6か月となった今、職員一同日常業務にも慣れ、落ち着いて仕事に取り組めるようになりました。阿南川島クリニックの各部署よりこれからの診療業務に対する思い、心構え、また少し専門的になりますが医療設備、透析療法の具体的な方法などにつて述べてまいります。



透析室看護の役割には、慢性腎臓疾患の特性から、病と緒に生きていく患者さんには疾患からくる身体的問題のみならず精神的また社会的、そして高齢化による介護問題など多

川島病院の透析室が開設されて40周年となる本年、阿南川島クリニックが開院致しました。県南の地域かかりつけ医である宮本院長と11名のスタッフが「丸」となり、川島ホスピタルグループのよき伝統を併せて、地域に根差したクリニックを目指しています。

外来では在宅医療・健康相談など日常的な医療を安心してお受けいただき、透析室では最新機器での透析医療の提供、ライフスタイルに合わせた腎代替療法（血液・腹膜透析、腎移植）選択の支援などのお役に立ちたいと思っています。



看護師主任
数藤 康代

看護師



阿南川島クリニック スタッフ紹介

最新透析機器を備えた
阿南川島クリニックを支える、
パワーみなぎるスタッフを紹介します。



内科医師
宮 恵子

阿南川島クリニックで月曜日に透析室勤務をしている、川島病院内科の宮と申します。透析室の診療は腎代替療法に限られており、患者さんは、従前からの「かかりつけ医院・病院」に通院しながら当クリニックで血液透析治療を受けておられます。

透析以外の症状で困ることも多く、毎回数通の紹介状を作成するのですが、小松島・羽ノ浦・阿南（西部）地区の開業の先生方、徳島赤十字病院さん、阿南共栄病院さんなどが快く診療を引き受けてくださいますので、大変ありがたく感謝しています。患者さんも「阿波三峰に守られた岩脇地区のように「地域医療に守られながら血液透析」を受けられるので、安心なと思っています。

微力ではございますが、地域の腎代替療法施設の一員になれるように先生方との情報共有に努めてまいりますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



くのかかわりが要されると考えています。また住み慣れた地域でその人らしく日常生活が継続出来るよう、地域病診・介護連携でのご協力を賜りながら、健康管理や意思決定の支援も重要であると思っています。

川島病院をはじめとした全てのサテライトクリニックと共に学習の機会を持つ教育システムや研究活動等を通して、スタッフ全員で進化できるような取り組みをしています。

開院し6ヶ月。患者さんやご家族から「通院時間が少なくなつて嬉しい」「バリアフリーで通院介護が楽になった」「気持ちがいい」と喜びのお声を頂きホッとしました。当グループの季刊誌名でもある「こもれび」のように明るくあたたかなやさしいクリニックで、毎日気持ちよく迎えたいと思っています。





宮本院長とは、20年間お仕事させてもらっています岩本久代です。先生は、患者様を大切に二人一人が納得できるような診療をされています。先生が目指されている「地域と共に歩んでいけるクリニック」そんな想いに微力ながら私も阿南川島クリニックの看護師として努力し頑張っていこうと思っております。よろしく願います。



外来看護師
岩本 久代

私は看護助手として、患者さんの身の回りのお世話をさせて頂いております。クリニックに初めて来られた患者さんは、慣れない環境でストレスなど色々あるかと思いますが。しかし日々元気になり自分の好きな事ができ活き活きしている患者さんを見ると、私の方が元気をもらっています。これまで以上に、少しでもお役に立てるよう頑張ります。



看護助手
柏原 節子

阿南川島クリニックでは日機装社製の透析システムを採用し開院当初はコンソール20台でスタートしました。患者数の増加に伴い現在は40台となり全台オンラインHDF療法で稼働可能です。オンラインHDF療法を施行するうえで透析液の清浄化は必須であり厳格な水質管理が求められます。阿南川島クリニックの透析は現在、月水金1クールしか行っていない為、稼働時間が



臨床工学技士
磯田 正紀

少なく水質汚染が心配されました。KHGでは透析機器安全管理委員会や臨床工学部のメンバーと水質悪化対策や洗浄方法の検討を行っており清浄化透析液を担保し、安全かつ高度な医療を提供できるよう努めております。私は2月の開院時より阿南川島クリニックに配属となりプライベートの面では自宅から近い事もあり通勤時間が大幅に減少し、娘たちの登下校の時間に自宅にいれるようになり子供と接する時間が増えてよかったです。これからも自分の生まれ育った地域のみなさんにも医療で貢献できるように努力したいと思います。



川島グループに入職して今まで透析看護に従事してまいりました。この度阿南川島クリニック開院に伴い配属となりました横納幸子です。阿南川島クリニックでは、川島ホスピタルグループからの転入患者さん以外にも近隣の阿南共栄病院や徳島赤十字病院等からの透析患者さんも増えてきております。趣味はサッカー観戦（ヴォルティス命です）。11匹の可愛い猫たちとヴォルティスが再びJ1に上がる日を夢見て応援しています。



透析室看護師
横納 幸子

4月から阿南川島クリニック外来で勤務させて頂いています中飯です。外来では、宮本先生の目指す地域に寄り添った看護をしています。また特定健診、癌検診なども行っております。現在透析のことも勉強中で毎日やりがいのある日々を過ごしています。

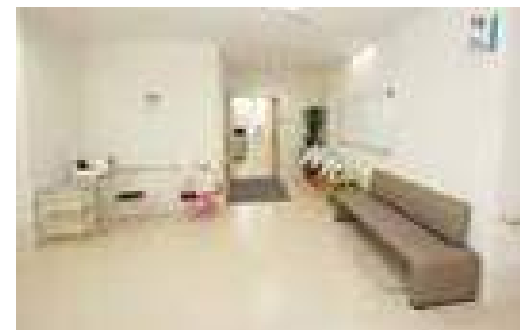


外来看護師
中飯 美代

明治橋診療所から阿南川島クリニック開院とともに配属になりました原田郁子です。看護学生の頃に約3年透析室勤務の経験がありましたが、最新のシステムや透析方法に昔との違いを感じております。少しでも早く最新の透析業務を覚えらるよう頑張ります。



透析室看護師
原田 郁子



医療クラークは、医師が患者様の顔を見て診察ができるよう、電子カルテの代入力や検査のオーダーを行っていただきます。受付医事や看護師と連携して、診察や検査がスムーズに進められるよう段取りをするのも重要な役割です。地域に根差した医療を目指している阿南川島クリニックでは、小さなお子様の診察から在宅・施設への往診など幅広く診療を行っており、川島病院での勤務とはまた違う経験ができて勉強になっています。



阿南 外来クラーク
奥川 朝子



臨床工学技士
石川 葵

8月より阿南川島クリニックに配属になりました、石川葵です。川島ホスピタルグループに入職して2年目になりました。新人ではありますが、日々精進していきたいと思っています。業務に関してはまだまだ覚えることがたくさんあります。磯田技士の指導の下、毎日楽しく仕事に励んでいます。運転初心者だった私ですが今では阿南クリニックまでの道のりにも慣れ、若葉マークも無事卒業することができました！特技は中学から続けているトロンボーン、趣味は休日のアニメ鑑賞です。若さを生かして、元気いっぱい頑張ります！よろしくお願致します。



医事診療情報科

医事診療情報科では受付会計業務を行っております。阿南川島クリニックは幅広い年齢層の患者さんが来院されると、一番最初に出会うのが私たちであるため、明るく丁寧で細やかな気配りが大切だと思っております。患者さんの病気に対する不安な思いに寄り添えるように努力していきます。



医事診療情報科
今井 由紀

宮本先生の元、明治橋診療所で経験してきた一般外来業務の上に、新たに透視医療という分野が加わり自分の経験や知識の浅さを痛感しております。まだまだ学ぶことが多く、クリニックのスタッフの皆さんをはじめ、医事診療情報科の方々に助けられながら、勉強の毎日です。至らぬ点も多いとは思いますが、学んだ事や経験した事を活かし、患者さんと向き合う姿勢を大切に、笑顔忘れずスタッフ皆さんと協力し合って、より良い阿南川島クリニックを築いていく一員として頑張ります。



医事診療情報科
長谷部 好

宮本先生と宮本内科明治橋診療所の3人と共に、KHGに入職して早いもので6か月が経ちました。入職してすぐに、規模の大きさと院内の電子化に圧倒されました。パソコンおんなちは私は、この電子化状況にまだまだ悪戦苦闘の毎日を送っております。しかし、素敵な新たな出会いもあり、職員の皆さんの助言・サポートを頂きながら、頑張っております。まだまだ学ぶ事が沢山あり、色々な事を吸収して行きたいと思っております。笑顔忘れず、患者さんとコミュニケーションを図り、スムーズな対応が出来る様、努めて行きたいです。



平成28年度 川島ホスピタルグループ 事業計画



1へき地医療の支援

引き続きへき地診療所に医師派遣を行い、へき地における医師確保に貢献する。

2診療内容の充実

①新たに開院した阿南透析クリニックの適正な運営に努め、県南部の透析治療の点とする。

②対外関係の強化、市民公開講座をはじめとする広報活動、各クリニックでの外来診療強化による診療圏の拡大などのより外来診療を強化する。

③各職種が参加する認知症対策委員会を設置し認知症対策の推進に取り組むとともに、認知症関連の学会、研修会への積極的参加を推奨する。

④透析患者数の停滞が予想される中で、診療科目の拡大を検討する。

⑤各分野で、より専門性の高い診療を提供する。

3透析患者の確保

①通院支援を強化し、外来透析患者の利便性の向上に努める。

②徳島県の腎疾患対策事業に協力することにより、腎臓病外来の充実に努める。

4川島病院の構造設備の改装

保有病床（123床）の有効利用と今後10年間の診療の質・量の変化に対応できる構造設備を検討し、年度内に病院の改装を行う。

5クリニックにおける透析用水の確保

鳴門クリニック及び脇町クリニックにおいて

災害時における透析用水確保のため、上水貯水槽の増設を行う。

6不当要求防止対策の推進

①KHGクレーム対策マニュアルを周知徹底する。

②不当要求行為の防止に関する研修会を実施する。

7歯科診療による患者ケアの充実化

①全身疾患を有する患者の歯科治療を実施する。

②入院患者の口腔ケアと摂食嚥下障害への対応を行う。

8災害対策活動、医療事故防止活動の積極的推進

①透析患者の高齢化に伴い、増加が想定される透析中の抜針事故防止対策の抜本的見直しを図る。

②医療事故防止のため、勉強会の開催等を通じ職員の技術能力の向上を図る。

③大規模震災を想定しての定期的対応訓練及び災害に備えての準備を実施する。

④各種手順やマニュアルの周知徹底及び実行を促進する。

⑤対策月間設定等による全職員に対する啓発教育を強化し充実させる。

⑥震災対策会議を開催し内容を一層充実させる。

9教育・研究活動の強化と支援

①新入職員、中堅職員、途中入職職員への教育内容を充実させる。

②KHGと関連のある分野の全国規模の学会、研究会への積極的参加を奨励し支援する。

③KHGと関連のある分野の研修会、講演会、セミナーへの参加を奨励する。

④院内学習会を定期的に実施し、部署ごとの勉強会、抄読会を頻りに実施する。

⑤部署目標、委員会目標の中間及び年度末フォローによる達成度評価を行い、改善のための指導を実施する。

⑥部署、委員会における研究及び活動テーマ発表会を実施する。

⑦業務上有用な資格の積極的取得の推進と支援を実施する。

10地域社会との交流や関連施設との連携の強化

①健康・福祉フェスタを実施し内容を一層充実させる。

②震災対策会議を開催し内容を一層充実させる。（再掲）

③広報誌を継続発行し内容を一層充実させる。

④ホームページの内容を充実させタイムリーに更新する。

⑤関連病院間や病診連携会議へ積極的に参加する。

11働き甲斐のある職場環境の確保

①チーム医療を推進する。

②円滑な業務執行のため、適切な職員数の確保に努める。

③業務上の成果、努力を人事考課へ正當に反映させる。

④職員の職場労働安全衛生対策を推進する。

⑤職員に対する福利厚生を充実させる。



脳外科外来スタート

充実した環境で 専門病院の一旦を担う

本年4月より脳神経外科医として勤務しています。3月までは、徳島県立中央病院で勤務していました。中央病院では、重症頭部外傷や脳卒中の患者さんが多く、年間600名の入院患者さんの約8割が救急からの入院でした。また、手術患者さんの7割が緊急手術でした。

毎日、救急車やドクターヘリで救急患者さんが運ばれて来るので、気の休まる暇がありませんでした。川島病院からも、脳出血や脳梗塞や消化管出血の患者さんをご紹介頂きました。

川島病院は透析で有名な病院です。徳島県の透析患者2,500名のうち、約4割強が川島グループで透析をしています。腎移植の患者数も県下二です。透析の原因は、糖尿病が半数を占めています。徳島県は、糖尿病

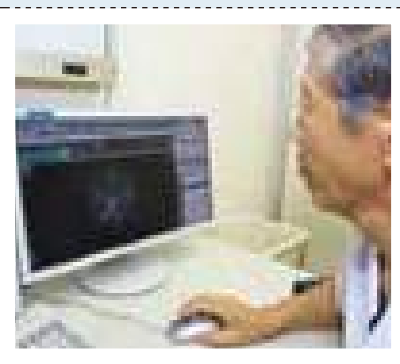


川島病院副院長

本藤 秀樹
Hideki Hondo

患者の死亡率が日本で第一位でしたが、昨年はその一位を何とか返上しました。当院は糖尿病の専門医が島先生をはじめ多数おられます。また、循環器科の患者さんも多く、冠動脈造影やステント留置術が数多く施行されています。さらに、泌尿器科は専門医制度の研修指定病院になっており、前立腺肥大や腎結石や膀胱がんの症例を多数手術されています。

透析患者さんは、脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）を起こす率が、一般の人と比べると3倍多いと言われています。糖尿病の患者さんは、動脈硬化が進みやすく、脳血管や頸動脈病変を合併し易いといわれています。また、冠動脈病変を有している人は、約半数に頸部の内頸動脈狭窄症を合併することがわかっています。さ



らに、多発嚢胞腎の患者さんは、脳動脈瘤を合併しやすいと言われています。当院は1.5テスラのMRIや冠動脈の検査が可能なCT、頸部エコー（超音波）、SPECT（脳血流シンチ）などの素晴らしい検査機器が揃っていますので、脳動脈瘤や脳梗塞の早期診断、発症前の内頸動脈狭窄症などの診断が可能です。現在、検査室を新しく増設中で、新しい脳波計も導入予定です。

脳神経外科の外来は月曜日の午前中と金曜日の午後を担当しています。頭痛、しびれ、めまい、痙攣、手足の麻痺、歩行障害、言語障害などがあれば、いつでもご相談ください。



▲医療支援出発式にて

KUMAMOTO Medical Support

5月5日10時30分川島病院玄関前での出発式後、新幹線で熊本入り。車を乗り継ぎ、徳島から6時間半かけて活動場所の阿蘇へ到着しました。道中は、瓦や壁が崩れ落ちブルーシートが目立ちました。宿泊先に到着後、休む間もなく前班と引継ぎを行いました。この際、震度3～4の揺れがあり身体が凍る思いでした。その後も震度1～2は幾度もありました。

看護師…阿蘇医療センターの病棟日勤(8時30分～17時15分)、阿蘇温泉病院の病棟夜勤(17時～9時)で病院支援(受け持ち制で勤務)。

病院内は、通常業務を行っていた。病院職員は被災者であるにもかかわらず、仕事を優先している



看護師
笠井 泰子
Yasuko Kasai

※ADRO：活動拠点、救護班のマネジメントを行う事務局を「ADRO阿蘇地域災害保険医療復興連絡会議」と命名。4月20日立ち上げ。

今回の主な活動内容は、次の通りです。
医師・他職種…阿蘇保健所にて、相談窓口対応業務等に従事。ADRO(※)本部からの指示で、避難所の視察や不足物品の調達。夕方、ADROでのミーティングに参加し、活動報告と翌日の業務調整。

私は何度か災害救護班で活動経験があり、躊躇なく活動させていただきました。「医療界に境界線はない」と毎回感じています。

状況であり、業務の軽減目的で活動。今回、派遣された看護師の受け入れ態勢は整っていたように思います。



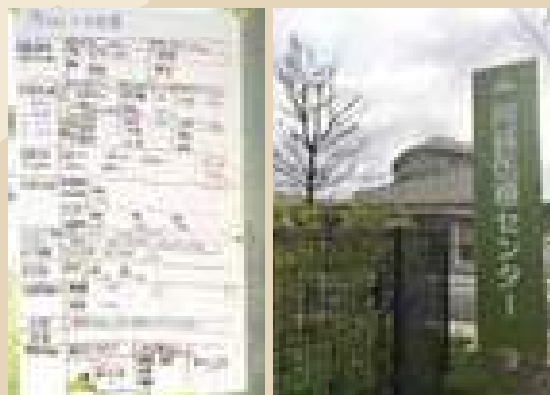
鹿児島県の
スタッフと共に▶

徳島県医療救護班として

熊本医療支援



2016年4月14日熊本地震発生。
発生から21日目の2016年5月5日から5月9日の5日間、熊本地震の徳島県医療救護班第6班で活動してきました。
班員は、医師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・事務調整員各1名、看護師2名の計7名(うち当院から5名)で構成されていました。

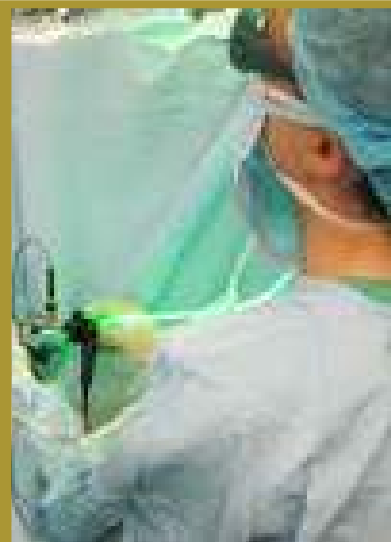


この度、2016年2月14日の第252回徳島医学会学術集会におきまして、演題「当院における光選択的前立腺蒸散術(PVP)の臨床的検討」で、第35回徳島医学会賞を受賞させていただきました。大変光栄であり、ご関係の皆様方に心よりお礼申し上げます。

従来、前立腺肥大症の手術療法では、肥大した前立腺を電気メスで切除する経尿道的前立腺切除術(TURP)が主に行われてきましたが、出血などの合併症がやや多く、より患者さんへの負担の少ない手術手技が期待され、開発されてきました。その中でもPVPは、有効性がTURPとほぼ同等で、出血などの合併症が少なく入院期間も短いことで注目され、2011年7月より保険収載されて以後急速に普及しております。

治療効果はTURPにほぼ匹敵し、合併症は少ないという結果でした。私自身も実際に手術を行ってみて、TURPと比較してPVPは、かなり患者さんにやさしい治療であるという印象を持っております。やさしい治療とは具体的に、出血が少なく、術後のカテーテル牽引による

圧迫止血や持続膀胱洗浄が不要、もしくは最小限ですみ、カテーテルの留置期間が短いことなどがあげられます。これらは、患者さんにやさしいだけでなく、実は、医療スタッフに対してもやさしいということであり、医療を提供する側にも大きなメリットとなっています。



川島病院泌尿器科部長

西谷 真明

Masaaki Nishitani

第252回 徳島医学会学術集会

「第35回徳島医学会賞」を受賞して

いただいております。



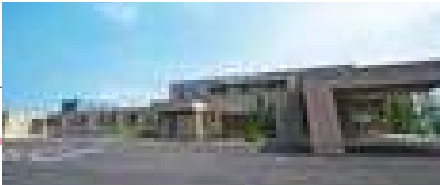
TOPICS

| 主な行事 | 2015年9月～2016年8月

2015

9月	広報誌13号発行 KHG懇親会 職員親睦旅行・国内(能登)	
10月	職員親睦旅行(USJ) 地域連携懇親会	
11月	第18回健康・福祉フェスタ	
12月	忘年会	

2016

1月	防災訓練	
2月	2月1日阿南川島クリニック開院 第14回川島ホスピタルグループ震災対策会議 KHG懇親会	
3月	KHG研究・活動テーマ発表会	
4月	入職式 新入職員オリエンテーション 歓迎会 職員親睦旅行・海外(台湾、パリ)(4月～5月) とくしまマラソン	
5月	職員親睦旅行・国内(北海道)	
6月	KHG懇親会	
7月	第6回市民公開講座	
	職員親睦バーベキュー大会	
8月	川島病院連 阿波踊り参加	

BEST SHOT

今年の1枚

撮影・川島 周

オランダ人の夫婦

この写真はフランスのアルコニエ地
方にあるウエスレーという村で撮影しま
した。この夫婦は休暇で愛犬を連れてオ
ランダから来たと聞いていました。陸
橋を撮影するのが好きですが、盗み撮り
も結構あります。しかしこの夫婦とはし
ばらく話をしたためか、笑いながら自然
な表情の中で撮影できました。

このウエスレーはフランス全土に点在
するフランスの美しい村々の1つに認定
されています。現在144の村が認定さ
れていますが、フランスでの田舎も良い
ものです。



市民公開講座 プログラム

- ◆開会あいさつ
川島周
(社会医療法人川島会理事長)
- ◆座長あいさつ
水口潤
(川島病院院長)
- ◆特別講演
重松 隆氏
(和歌山県立医科大学腎臓内科学講座教授)
- ◆阿波おどり娛茶平による
ストレッチ講座
- ◆休憩
- ◆公演
篤 春夫氏
(徳島文理大学保健福祉学部
理学療法学科教授)
- ◆ミニレクチャー&栄養クイズ
野間喜彦
(川島病院糖尿病科部長)
松浦香織
(川島病院管理栄養士)
- ◆閉会



開会のあいさつ

6回目となる今回の市民公開講座のテーマは「骨と筋肉」。高齢化社会では、病気を治すためには何かをやめる、減らすということを考えがちだが、それが逆効果になる場合もある。特に骨や筋肉を強くするためには、しっかりと食べることで、体を動かすことが重要だ。

この講座では、ひと味違う工夫をお伝えすることができると思う。

高齢者が食べる量を減らすと、筋肉と骨が弱くなることもある。たくさん食べて、たくさん動いて、体を丈夫にすることを、今日の話を通して理解していただければ幸いだ。

座長あいさつ

これまでの講座では、腎臓病、糖尿病、循環器などの話題を提供してきた。今回は、健康とは自分で立つて歩くことから始まるだろうということ、骨と筋肉について話を聞いてもらう。

特別講演をしていただく重松先生は、腎臓内科の先生。腎臓内科の先生がなぜ骨について講演するかと不思議に思う人もいるだろう。腎臓は、骨に大事なビタミンD、カルシウム、リンを調節しており、骨との関連が深い。今回は、骨にも造詣が深い重松先生に貴重なお話をさせていただく。



川島 周
(社会医療法人川島会理事長)



水口 潤
(川島病院院長)

第6回

社会医療法人

川島病院 市民公開講座

健やかに暮らすために ～骨と筋肉を守ろう～

第6回社会医療法人川島会川島病院市民公開講座「健やかに暮らすために～骨と筋肉を守ろう～」(同病院、徳島新聞社主催)が7月10日、徳島市のホテルクレメント徳島で開かれた。特別講演では、和歌山県立医科大学腎臓内科学講座の重松隆教授が、骨粗しょう症になりやすい人の特徴を挙げ「50歳からは体重を増やし、日頃から運動をして筋力を鍛えよう」と具体的な予防法などについて分かりやすく解説。そのほか、筋力をつけるための運動法や健康寿命を延ばすためのポイントなどについての講演やミニレクチャー、栄養クイズなどがあった。要旨を紹介する。



阿波おどり 娯茶平による ストレッチ講座

要介護状態の原因疾患は、脳血管疾患や認知症など、要支援状態の原因疾患は関節疾患、衰弱、骨折・転倒などで、要支援状態の半分以上が運動器に起因するものだ。

ロコモという言葉聞いたことはあるだろうか。ロコモとは、ロコモティブシンドロームのことで、筋肉や骨・関節が弱ってきた状態のことを言う。症状としては▽つまずいたり滑ったりする▽階段を上がるのに手すりが必要▽15分続けて歩けない▽立ったまま靴下をはけないなど。これら一つでも当てはまればロコモで、改善が必要となる。

筋力が弱っていないか立ち上がりテストをしてみよう。両足で20センチの高さのところから手を使わずに立ち上げられるかどうか。これができないと赤信号となる。2ステップ値を測ってみるのもいい。2



鷺 春夫氏
徳島文理大学
保健福祉学部理学療法学科教授

講演

元気で長生き 筋力をつけよう

歩で何センチ進めるかを測り、それを身長(センチ)で割る。その値が1・1未満だと赤信号だ。自分の体の状態を確認するため、普段から検査してみるといいだろう。運動機能を改善するための効果的な体操は、開眼片足立ちだ。片足で1分ずつ立つ。これを1日3回、計6分間行くといい。椅子や壁を持ってやってもいいので無理をしない程度にすることが大切だ。

楽にできる人は、足をより高く上げるなど負荷を加えるといいだろう。こうした運動を歯磨きをしながら行うなど、普段の生活の中に取り入れてほしい。

スクワットもいい。注意点は、膝を曲げた際に膝の位置を必ずつま先よりも後ろにすること。椅子から4秒かけてゆっくりと立ち、また4秒かけてゆっくりと座する方法でもいい。これを10回程度繰り返し、少しきついいと感じたら終わりにする。

立ち座りなどの筋トレは地味なものでなかなか続かないが、高齢者では週1〜2回、1カ月続ければ自覚的によくなったことが



分かる。3カ月続ければ、他人にも分かるほどになる。継続が重要だ。

最近の研究で、歩く速度が遅くなると認知症の発症リスクが高くなるということが分かってきた。遅いといわれる目安は、秒速80センチ以下。青信号で渡りきれない場合はその可能性が高い。

早く歩くためには股関節の筋肉を強くする必要がある。椅子に座って足を片方ずつ高く上げる足踏みを30〜300回行うと良い。筋力が弱い人は体が揺れてくるだろう。息切れしたり、少しきついいと感じたらやめよう。

これらの運動を今日から実践して、元気で長生きしてほしい。

特別講演

骨を知って骨を守る 骨粗しょう症に負けるな



重松 隆氏
和歌山県立医科大学
腎臓内科学講座教授

生物は海で生まれ、陸に上がった。海は塩分とカルシウムを多く含んでいる。生物は、陸に上がった結果、カルシウ

ム不足になった。カルシウムは体内で大事な働きをしている。それを貯めているところが骨だ。

骨は、骨塩と骨基質できていて、硬いと思われているが、実はやわらかい。体内でカルシウムが足りなくなると、破骨細胞が骨を溶かす。逆に十分あると、骨芽細胞でカルシウムを貯める。いわゆる貯蔵庫のような働きをしている。

骨は常に作られ、壊されていて、1〜2年で全部入れ替わる。骨の構造は円筒状で、中は空洞だ。円筒の形であることにより、軽いが横からの力に弱くなっている。

骨の役割は、体を支え、内臓を保護し、筋肉組織の支柱となること。さらに、カルシウムを貯め、血液をつくる機能も持つ。

がんや腎不全、高血圧などは全く症状がなく、骨粗しょう症もそう。このように、症状が軽い病気が実は病気が多いことが多い。症状がないから検診が重要となる。

骨粗しょう症は、骨がスカスカになり、骨折しやすくなる病気だ。骨折する前には何の症状もない。

骨量は20〜30歳代にピークに達し、生理が止まると急速に落ちていく。骨量がピーク時の80%以下になると骨量減少、70%以下になると骨粗しょう症と診断される。骨粗しょう症は、閉経後の女性に多い病気、高齢化に伴い今後患者は増えるだろう。

転んだり、しりもちをついたりして骨折することが多いが、骨折の部位によっては寝たきりになることもある。骨折後は、死亡の危険性も高くなる。骨折したら即刻手術をすることをお勧めしたい。

骨粗しょう症の治療法は薬物療法しかない。骨折をしないためには、転倒やしりもちをつかないようにしなければいけない。そのためには、筋力を鍛えることが重要だ。

骨折しやすい人は、高齢者、女性、副腎皮質ホルモンや痛み止めなどの薬物を使用している人、腎臓病や糖尿病、リウマチなどの病気を持っている人、やせている人、塩分をたくさんとる人、運動嫌いの人などだ。

では、どうすれば骨折を減らせるか。それは、骨密度のピークを高くして骨を強くしておくこと。ピークとなる中高生の時期に、カルシウムをしっかりとって、体重を増やし、運動することが重要だ。

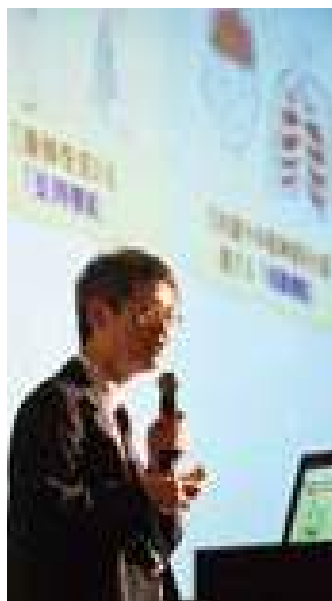
50歳からの対策は、▽体重を増やす▽筋力を鍛える▽日光に当たる▽バラン

ス運動をするなど。日頃からウォーキングポールを使って歩く、大股歩きや早足、足上げ歩きなどの筋トレ運動などを実践しよう。階段を上ったり、家ではスリッパではなく体育館シューズをはいたりするのもいいだろう。食事ではたんばく質を積極的に取る。つまずく原因となるマットやじゅうたんを捨て、階段には滑り止めを。外出時には、ハンドバッグの代わりにリュックを使うと、両手が空いて体のバランスも良くなる。

骨粗しょう症の治療薬は数多くある。整形外科だけでなく内科や産婦人科などに専門医がいることを覚えておいてほしい。

骨粗しょう症の合併症は、エネルギー不足や栄養障害、虚弱(フレイル)、筋肉が落ちる「サルコペニア」、運動器の障害により要介護のリスクが高くなる「ロコモティブ症候群」などがある。たんばく質不足が原因となる場合が多いので、赤身肉などを食べるようにしてほしい。

「骨」に「豊」と書いて「からだ」と読む。「身」に「本」という字もある。からだは資本だということを忘れないでほしい。



2015-2016 Photo Report

写真で見る川島ホスピタルグループ行事

- 健康・福祉フェスタ
- 慰安旅行
 - ・バリ
 - ・台湾
 - ・国内旅行
- 部活・サークル紹介
- とくしまマラソン
- 阿波踊り
- バーベキュー大会

I 市民公開講座



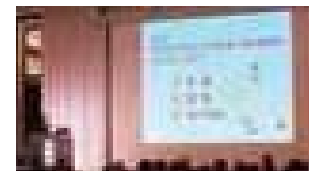
松浦香織
川島病院管理栄養士

加齢とともに、食欲低下や噛んだり飲み込んだりする力の低下、味覚障害などによって食事が減少する。その結果、やせや低栄養となり、筋肉や骨量が低下するという悪循環が起こる。筋肉と骨を守るためにはしっかりと食べる。ことが重要だ。骨と筋肉に必要な食事は、カルシ

栄養クイズ 食生活を見直そう 骨と筋肉を守る 食事って??

- 問2 次の中でカルシウムが一番多く含む食品は?
- ①牛乳
 - ②豆乳
 - ③ヨーグルト

答①



ウムの多い食品を選ぶこと、たんばく質を多く含む食品を毎食食べる。クイズ形式でポイントを紹介する。

問1 成人では一日にどのくらいカルシウムが必要か?

- ①約3000mg
- ②約6000~8000mg
- ③10000mg以上

答②

現状ではこの推奨量に男女とも足りていない。カルシウムは体で作ることができないので、毎日の食事ですっかり摂ることが必要だ。

問3 肉と魚以外でたんばく質が多く含まれるものは?

- ①卵
- ②牛乳・乳製品
- ③大豆・大豆製品

答全部

肉・魚・卵・牛乳や乳製品、大豆や大豆製品。

牛乳には200ミリリットルで2200mgのカルシウムが含まれている。たくさん含まれているからといって、飲み過ぎは良くない。一日にコップ一杯(200ミリリットル)程度でいい。

カルシウムと一緒に摂るとい栄養素に、ビタミンD(サケきの種類など)、ビタミンK(ほうれん草、ブロッコリーなど)、マグネシウム(アーモンド、ひじき、納豆など)がある。これらを組み合わせると効率よくカルシウムを摂取しよう。

逆に摂り過ぎに注意しなければいけない栄養素はリンや塩分の多いもので、インスタント食品の摂取は控えた方がいい。

の5種類の食品にはたんばく質が多く含まれている。1日の食事ではこれらをまんべんなく食べ、心掛けてほしい。トーストをチーズトーストにする。そうめんや卵やエビをプラスするなどひと工夫するとい。

問4 どちらがたんばく質が多いか?

- ①サーロインステーキ
- ②ヒレステーキ

答②

赤身の肉にたんばく質が多く含まれる。マグロの場合は、トロよりも赤身の方が多い。

一度、自分の食事を振り返ってみよう。食習慣が分かると、何を補えばいいのかが分かる。骨と筋肉を守るため、必要な栄養素を食事からしっかり摂ることが大切だ。

ミニレクチャー

健康寿命を 延ばすということ



野間 喜彦
川島病院糖尿病科部長

健康とは、身体だけでなく、精神的にも健康で、社会活動もできる、バランスのとれた状態のことをいう。このバランスがキープできなくなり、フレイル(虚弱)、要介護状態と進んでいく。フレイルまでの時期を健康寿命という。

平均寿命の伸びとともに健康寿命も伸びているが、平均寿命と健康寿命の差が、男性で9年、女性で12年ある。その差をなんとか縮めたい。まだ健康な状態に戻りえるフレイルを意識した生活改善の工夫が必要である。

人間は、年齢とともにだんだん弱っていくが、病気をすると急激に弱る。介護が必要となる原因は、多い順に脳卒中、認知症、高齢、骨折で、防げるものは防いで健康寿命を延ばしたいものである。

糖尿病の合併症は、生活の質(QOL)を悪くして健康寿命を損ねてしまう。最近、歯周病、認知症、がん、骨粗しょう症なども糖尿病の合併症であることが分かった。歯周病になると、噛まずに飲み込むので血糖値が上昇する。かむ力が弱くなると、食欲がなくなつて

体力低下に至る。治療が重要だ。また、糖尿病治療が認知症の予防に役立つかもしれない。

糖尿病以外にも、健康寿命は、高血圧、慢性腎臓病、COPD(慢性閉塞性肺疾患)などの生活習慣病に大きく影響される。

健康で過ごせる時間を延ばすために、運動や食事に気をつけて生活習慣病を予防し、検診を受けて生活習慣病の早期発見早期対策に努め、治療を中断しないように気をつけよう。



みんな良く揃っています

鼓笛隊の行進 ブルーリバーさん



いかがでしょうか？

お茶席にて



「買ってー」

模擬店



歌声が響き渡ります

コーラス ピンクフラワーズの皆さん



血糖値 or 血圧？ よく似てる？

健康相談



ステージも模擬店も盛況

少し寒くなってきた季節と雨で、模擬店では、あたたかい食べ物や売れ筋商品となっていました。テントには飲食スペースが設けられており、沢山の人が買った食べ物や飲み物をほおばり、談笑していました。院内では地元グルメコーナーも負けず賑わいを見せていました。食事以外では、気軽に健康について相談できる場を作り、来場者の人々と関係を深めることが出来ていました。また、元気な子供達に人気があったのは、スーパーボールすくいと徳島インディゴソックスの選手を招いたストライクアウトコーナーでした。例年多くの子供達がストライクアウトに挑戦し、選手の方々と、気軽に会話できる人気の出し物となっています。

ステージ上ではキッズダンスやコーラス、和太鼓の迫力ある演奏がありました。公演中は用意されたテーブルや椅子が満席となりました。会場には、皆さん演奏を楽しんでいました。合間には、誰でも使えるAEDの講習も開催されました。

ステージ横ではアツアツのもち米が用意され恒例の餅つき大会も開催され、参加者総出の餅つきは老若男女問わず、つくのも食べるのも、大いに盛り上がるイベントでした。



2015.11.8

第18回

健康・福祉フェスタ

～地域と共に幸せを～

広報委員／八幡優季

毎年恒例の川島病院健康福祉フェスタが開催されました。あいにくの空模様となりましたが、今年度も病院前の駐車場は大勢の参加者とスタッフであふれていました。小雨降る中、川島理事長の挨拶で無事開幕することが出来ました。

若さ弾けています

主な催し

- まんぷく模擬店 ●郷土グルメコーナー ●ダンス・ニングがわしま ●介護器具展示・体験コーナー ●健康相談・介護相談コーナー ●血管年齢計測 ●スタンプラリー ●ゲームコーナー ●お楽しみ抽選会

メインステージプログラム

- 和太鼓演奏(太鼓の楽校) ●コーラス(ピンクフラワーズ) ●AED講習・救急処置模擬実演 ●ジュニアダンス(徳島市体育振興公社) ●鼓笛隊の行進(ブルーリバー) ●ライブ(中山由依) ●カラオケ大会 ●徳島ヴォルティス ヴォルタくん・ティスちゃん ●徳島インディゴソックス ●よさこい(徳島文理大学高知県人会) ●お楽しみ抽選会



よいしょ！

餅つき



ジュニアダンスの皆さん

川島会 バレーボール部

次は優勝を目指して!!

2015年6月より職員の運動不足解消やコミュニケーション向上を目的にバレーボール部を結成しました。現在総勢20名程度の職員が在籍しており、毎週水曜日20時から22時まで練習しています。日々の練習の成果を発揮する場として徳島県実業団連盟主催の大会に出場し、県内の企業チームと対戦しています。

今年も7月3日(日)第50回米村杯争奪ミックス大会に出場し、理事長ご夫妻、職員、職員家族の応援のもと準優勝という輝かしい成績を残すことが出来ました。後日、祝準優勝会!を開催。理事長ご夫妻と選手たちの会話が弾み、次大会は必ず優勝するぞ!とさらに強い気持ちとなりました。

わが川島会バレーボール部は大会の度に成績が向上しています。その要因は参加チーム随一のチームワークだと思います。コート内の選手、控え選手、ベンチスタッフ、バレー部外の職員、職員家族と共に目標に向かって戦うことが出来ています。歓喜の声は体育館に響き渡ります。

職場でも同様に川島会というチームの中で各部署が連携して目標に向かって進んでいます。川島会が前進していく上でバレーボール部の活動も良い潤滑油として役立てればと考えています。

今年はあと2回(9月と10月)大会があります。

よろしければ職場とは違う姿を見に来ていただければ幸いです。

応援よろしくお願い致します。



クラーク／藤澤真弓

部活・サークル紹介

松友さんに続け!?

徳島市立体育館で、月1回程度バドミントンサークルを開催しています。

日々のストレス発散と運動不足を解消し、職種や年代を超えて親睦を深めることを目的として「みんなで楽しく」をモットーに、和気あいあいとバドミントンを楽しんでいます。職員の家族も参加できますので、お子さんも一緒に楽しめるアットホームなサークルです。

仕事の中では見ることでできない、弾けた姿を見ることができ、大笑いすることも少なくありません。

現在はまだ小規模ですが、もっとたくさんの職員に気軽に参加していただき、開催回数を増やして、さらに多くの職員と交流を深めていきたいです。

医事・診療情報課／福井美香

川島病院 バドミントンサークル



北海道

慰安旅行

北海道グルメ日記

今回の国内親睦旅行は5月29日〜31日と6月5日〜7日(泊3日)の2班が北海道旅行でした。

北海道といえはやはりお目当てはグルメ!!

海鮮、ジンギスカン、ラーメン、スイーツ... (ああ...今思い出しただけでも食欲が湧いてくる)

1日目は就寝まで...

函館に着き美しい星型の特別史跡五稜郭を展望台から眺め、函館ベイエリア赤レンガ倉庫群ではビアホールをみつけ初日の旅の疲れをビールで乾杯!

函館山の夜景を一望し、ホテルに着くやいなや夜食に函館といえは塩ラーメンこれは外せない!

2日目は大沼公園を散策

この日はこの公園の近くで親子で山菜採り行って子供が行方不明となっていたときで早く無事に発見できるといいねとみんなで無事を祈りながら過ごしました。(後日、陸上自衛隊の施設で無事保護されました有珠山・昭和新山を観光した食は札幌でジンギスカン。デザートに予め買っておいしたケーキを部屋で頼張る(満足!)

お土産については最終日

朝食は札幌外市場で海鮮丼定食など新鮮な魚をたっぷり。ワイン工場見学で試飲後お昼は千歳道産市場で食事とお買い物。上手に値切りたおしてたつぷりの蟹やホッケをお土産にできました。みんなバスの中では手荷物が段々と増えていき思い出も増えました。(体重も...)

短かった3日間ですが、たつぷり遊ばせていただいたので、さあこれからは仕事に家事に頑張れるぞ!

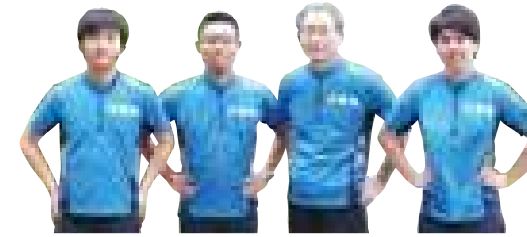
用度課／小泉由美

とくしまマラソン

2016

川島病院遊走会

とくしまマラソン2016が2016年4月24日(日)に開催されました。今年には4月に発生した熊本地震の復興を祈念する「熊本地震復興支援チャリティ・とくしまマラソン」として開催され、過去最多の1万2511人の方が出走しました。川島ホスピタルグループの『遊走会』からも、21名のスタッフが出走しました。



今回、川島病院検査室の男性陣全員がとくしまマラソンにエントリーしたということ、それぞれの想いや目標、そして走り終えて感じたことをインタビューしました。

臨床検査技師 室長 高松典通(以下高松)：マラソンを始めたきっかけは、体重を減らすこと、お腹の脂肪を減らすことでした。2015年7月、ジョギングから始めました。1ヶ月ほどして膝を痛め、整形外科に通いましたが、2週間ほどで復帰。秋には10キロマラソン、2016年3月にはハーフマラソンを経験しました。3月時点で70キロ前半から、3キロの減量を確実にしました。

岡本さん：徳島マラソンに出ようと思ったきっかけは、検査室の先輩に誘われて、自分も挑戦したいと思いました。

とくしまマラソン経験者の多田さん酒井さんも含めて4名にお話をしてもらいました。とくしまマラソンに向けての意気込みをどうぞ！(本番2日前)

高松：練習では筋力と持久力アップを意識して、1キロ6分を目安に走りました。しかし本番は思ったようには走れません。フルマラソンは初めてです。当日の天候、そして体調次第でどのような不安です。密かに目標時間をねらっていますが、まずは完走を目標にします。周りの応援と期待に応えたいです。

臨床検査技師 岡本拓也(以下岡本)：初めての無事完走できるようにがんばります！目標は完走することです。

臨床検査技師 主任 多田浩章(以下多田)：今年で4回目の出走です。去年は体調不良で完走できませんでした。今年にはリベンジの気持ちで完走を目指します!!検査室の団結力に期待してください!!そして月曜日も仕事がんばります!

臨床検査技師 酒井誠人(以下酒井)：今回は3回目です。少し気持ちに余裕があるので、楽しむのを優先し、その上で、4時間切れたらベストかなと思っています。

徳島マラソン本番、走っているときはどんな気持ちでしたか。

高松：走っているときは距離によっていろいろ考えました。スタートから10キロ位までは、当日の自分の体調、足の動きなどをモニターしながら、自分のペースで走れました。20キロ位までは水分と糖分の補給に気を付けましたが、結構汗をかきました。30キロ位から気持ちが弱くなり、走り歩きが混在し、35キロからは歩くことはできても、走る足はありませんでした。残った距離と時間を計算しながら、速足で休まず、ひたすら歩きました。40キロを過ぎて最後を走ろうと思いましたが、足が動かずゴールとなりました。

以上を簡単にまとめると、何を考えているか?「体調と時間配分を考えて走りました」

岡本：走っているときは、たくさんランナーがいる中で、一緒に頑張ろうという気持ちでした。共に励ましあいながら走って、歩いていました。

多田：徳島マラソンは、独特の雰囲気でお祭りのような感覚です。一緒に走っている人や応援してくれる人を見て、ただで楽しいです。

酒井：今回は、少し暑かったですが風も強くなく比較的気持ちよく良く走ることが出来ました。しかし、走りやすかった分、序盤に力を使い果たしてしまっ、後半に失速してしまい、最後10キロほどはかなりきつかったです。

本番では見事、4名全員が完走することができました!!走り終えた感想は?

高松：ゴールした時は、充実感でいっぱいになり、涙が出ました。自分の体と心の会話から成し遂げた成果です。

岡本：ゴールは一緒に走ったランナーと手をつないでゴールをし、とても感動しました。完走できて本当に良かったです。

多田：今年には歩くことなく昨年(リタイヤ)の「リベンジ」が出来ました。完走後は、やはり「感謝」の言葉しかありません。走れる環境を与えてくれた、家族、遊走会メンバー、応援してくれたすべての人に感謝します。あとは、走り終えた後の「ビール」最高でした。今回、検査室より4名がスタートラインに立ち、無事「ゴール」することが出来ました。この団結力を日々の業務にも活かしたいと思います。

酒井：昨年に比べると少しタイムが遅くなりました。ペース配分含め反省点は多く、3回目ということで少し油断があったかなと思います。ですが、4時間はなんとか切ることができたので、その点は良かったです。今回にこりず、来年も走れたらいいと思います。

今回、広報では検査室にフォーカスをあててインタビューをさせてもらいましたが、参加されたランナーの皆さまも本当にお疲れ様でした。また、今年には熊本地震復興支援チャリティとして開催されました。熊本地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。安全と一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

広報委員/吉川由佳里



徳島では5月ごろ夕暮れ時になると、鉦や太鼓のお囃子が街のいたる所から聞こえてきます。そしてその音色は今年も、川島病院リハビリ室、会議室から流れてきました。

手を上げて足を運べば阿波踊りといいますが、なかなか奥が深い。有料演舞場で披露するとなると、それなりに・・・ねえ・・・週2回 娯茶平さんの指導のもと、練習に励みました。

川島病院連は我々が連長、川島周理事長が音頭をとり、2011年に発足。「阿波踊りは親密な交流につながる」と感じて「川島周理事長と岡連長の「プロフェッショナル対談」、2011年阿波楽より」結成されたそうです。そして6年目の今年、総勢130名の大所帯に成長しました。普段様々な部署で働く私たちですが、職種役職の壁を取っ払って、数人からの声援を受け、みんな同じ踊る阿呆になると不思議と一体感や連帯感生まれるのです。そして、県外はもちろん、海外（フランス）からのゲストもお招きして、異文化交流にまで発展！これぞ、400年の歴史ある日本の伝統文化「阿波踊り」の力ではないでしょうか。

まだまだ、伸びしろのある川島病院連です。10年、20年先と川島病院連の成長は止まりません。

広報委員／宮内啓子



阿波踊り

2016年 徳島市の阿波踊り 踊りに興じた連は延べ850連。
4日で123万人の人出（徳島市の阿波踊り実行委員会発表）
8月14日、「川島病院連」も踊りの渦へ！

「川島病院連」は人気の高い有名演舞場で、毎年2ヵ所も踊っています！
今年は、藍場浜演舞場と紺屋町演舞場で乱舞を繰り広げました。



阿波踊り実行委員会のメンバー



練習参加者は、過去最多の約50名。本番への意気込みが熱い！



娯茶平の喜志康浩さん、原田美子さん
徳島の阿波踊りといえば「娯茶平」というくらい誰もが知る超有名連！



練習から我々の踊りを陰で支える
施設・庶務課 古賀久光

阿波踊りに初参加！



山本亜耶
（看護師）

徳島県で生まれ育ち、いつかしてみたいと思っていた阿波踊りにやっと挑戦できました。栈敷の暖かい雰囲気にも包まれ、大好きな同期・先輩方と踊る阿呆になれて本当に楽しかったです。ぜひ来年も！



木村浩徳
（管理栄養士）

阿波踊りを踊るのは初めてで最初はすごく不安でしたが、娯茶平さんの丁寧な指導のおかげで日に日に踊るのが楽しくなりました。川島病院連に入って踊りの楽しさを知ることができて本当に良かったです。



溝口翔梧（医師）

初めての阿波踊りは、1歳11か月の娘を肩車しての参加になりました。踊ったというよりは、歩きました。来年も家族で参加して、次こそは踊ります。

川島ホスピタルグループ 2015～2016年資料編

プロフィール

医師・職員取得資格

職員数

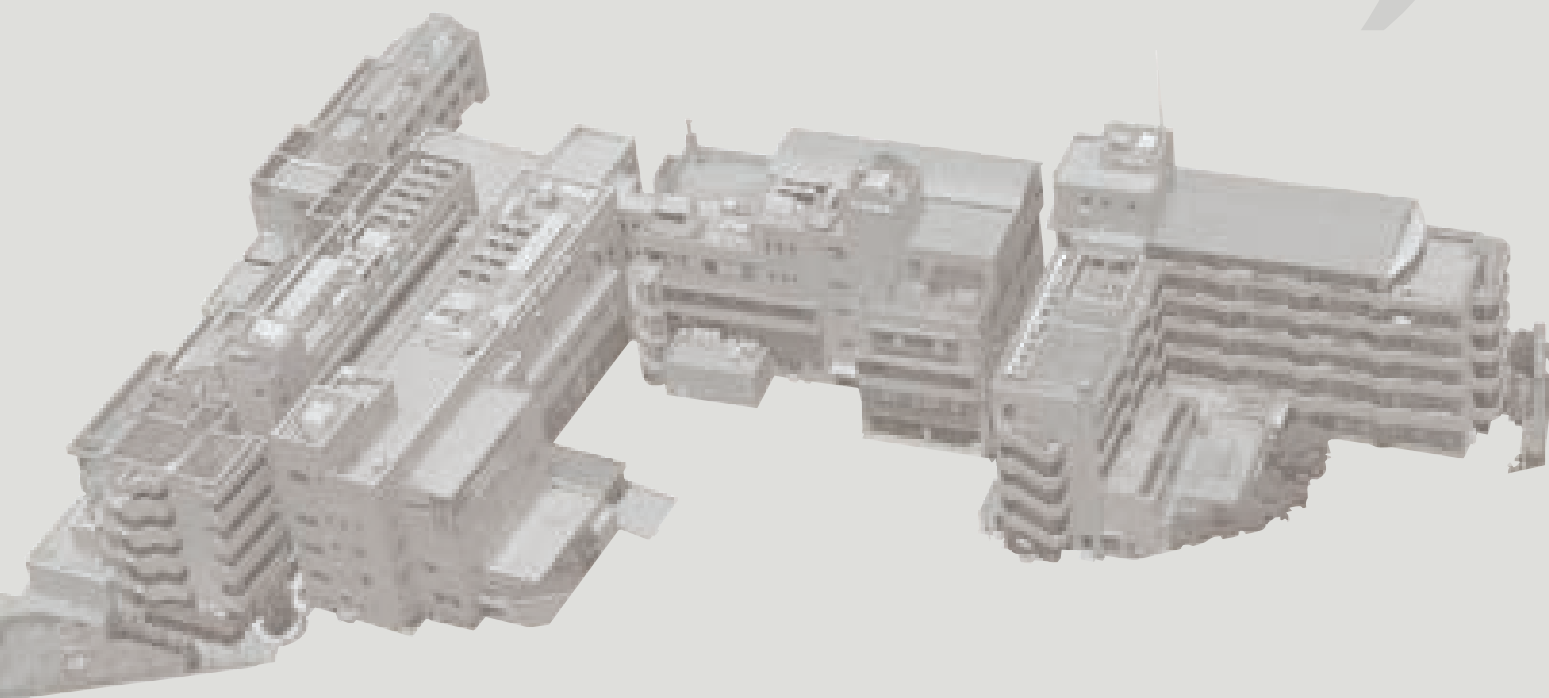
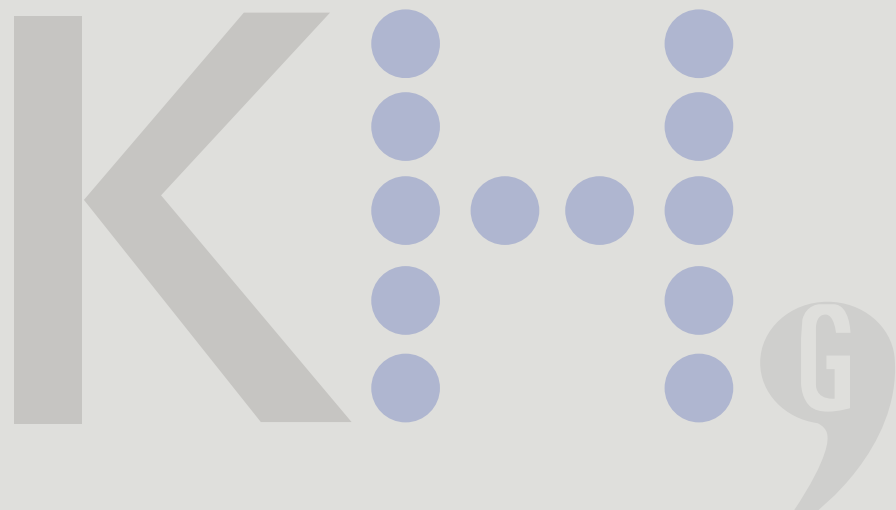
医師・職員院外団体等役職

座長、司会等

診療統計等

治験、製造販売後臨床試験

広報委員／大西美佐子



2015-2016 Photo Report

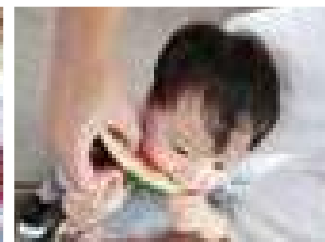


楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいい、最後は皆で後片付けをし、来たときよりも美しく、終わることが出来ました。また来年もより多くの職員の方々と来れることを楽しみにしています。

職員間の親睦を深めるためのBBQ。年々参加者は増えており今年も四国三郎の郷(美馬市)で開催されました。快晴とはいかず曇りでしたが、雨も降ることなく理事長先生の乾杯でスタートしました。美味しいお肉と美味しいお酒を皆さんと楽しくいただけるのは毎年の楽しみとなっています。また、普段一緒に仕事をすることのない職員の方とも交流の機会を持つことができるのは魅力の一つです。



けむい〜
ゴホッ



広報委員／佐木山薫

鴨島川島クリニックのプロフィール(2016年8月1日現在)

■ 標榜科目
内科、人工透析内科
■ 指定
保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、 労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定
■ 届出事項
透析液水質確保加算2、下肢末梢動脈疾患指導管理加算



鳴門川島クリニックのプロフィール(2016年8月1日現在)

■ 標榜科目
内科、人工透析内科
■ 指定
保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、 労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定
■ 届出事項
透析液水質確保加算2、下肢末梢動脈疾患指導管理加算



脇町川島クリニックのプロフィール(2016年8月1日現在)

■ 標榜科目
内科、人工透析内科、糖尿病内科
■ 指定
保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、 労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定
■ 届出事項
透析液透析液水質確保加算2、在宅血液透析指導管理料、がん治療連携指導料、 下肢末梢動脈疾患指導管理加算



川島透析クリニックのプロフィール(2016年8月1日現在)

■ 標榜科目
内科、人工透析内科
■ 指定
保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、 労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定
■ 届出事項
透析液水質確保加算2、在宅血液透析指導管理料、下肢末梢動脈疾患指導管理加算



阿南川島クリニックのプロフィール(2016年8月1日現在)

■ 標榜科目
内科、人工透析内科
■ 指定
保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定
■ 届出事項
透析液水質確保加算2、下肢末梢動脈疾患指導管理加算



川島病院のプロフィール(2016年8月1日現在)

■ 標榜科目
内科、腎臓内科(人工透析・腎移植)、泌尿器科(人工透析・腎移植)、循環器内科、循環器外科、糖尿病内科、消化器内科、呼吸器内科、放射線科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、血管外科、脳神経外科、皮膚科
■ 指定
保険医療機関、救急告示、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、労災保険指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、感染症法38条指定、難病医療指定、DPC対象
■ 届出事項
歯科外来診療環境体制加算、一般病棟入院基本料 (入院基本への加算)看護必要度加算3(重症度12%以上)、入院時食事療養／生活療養(1)、診療録管理体制加算 1、医師事務作業補助体制加算 1 区分25:1、急性期看護補助体制加算、療養環境加算、重症者等療養環境特別加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算 区分2、感染防止対策加算2、患者サポート体制充実加算、退院支援加算2、データ提出加算 区分2、糖尿病合併症管理料、移植後患者指導管理料(臓器移植後)、糖尿病透析予防指導管理料、ニコチン依存症管理料、がん治療連携指導料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料 1、歯科治療総合医療管理料、在宅患者歯科治療総合医療管理料、在宅血液透析指導管理料、検体検査管理加算(Ⅰ)、検体検査管理加算(Ⅱ)、時間内歩行試験、ヘッドアップティルト試験、持続測定器加算及び皮下連続式グルコース測定、歯科訪問診療科の注13に規定する基準、CT撮影及びMRI撮影、無菌製剤処理科、心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)、脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅲ)／廃用症候群リハビリテーション料(Ⅲ)、運動器リハビリテーション料(Ⅱ)、呼吸器リハビリテーション料(Ⅱ)、歯科口腔リハビリテーション料 2、透析液水質確保加算 2、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、CAD／CAM冠、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、大動脈バルーンパンピング(IABP法)、体外衝撃波胆石破碎術、体外衝撃波尿管結石破碎術、同種死体腎移植術、生体腎移植術、輸血管理料Ⅱ、輸血適正使用加算、クラウン・ブリッジ維持管理料
■ 施設認定
(財)日本医療機能評価機構 認定(審査体制区分2 Ver.6.0)、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本透析医学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本腹膜透析医学会教育研修医療機関、日本アフェシス学会認定施設、日本甲状腺学会認定専門医施設
■ その他
地域連携室



岡本 拓也	健康食品管理士
榎本 勉	X線CT認定技師
谷 恵理奈	第一種放射線取扱主任者
大石 晃久	日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導士、日本理学療法士協会認定介護予防推進リーダー
玉谷 高広	徳島県糖尿病療養指導士、健康ウォーキング指導士、公認ウォーキング指導士
高石 和子	嚥下トレーナー、認定歯科衛生士（認定分野A：摂食嚥下リハビリテーション）
山崎 明香	嚥下トレーナー、社会福祉士
田村 佑季	嚥下トレーナー、社会福祉士
薦田 茜	社会福祉士
藤倉 みき	社会福祉士
田尾 知浩	透析技術認定士
萩原 雄一	医療安全管理者
道脇 宏行	透析技術認定士
細谷 陽子	透析技術認定士
廣瀬 大輔	透析技術認定士
播 一夫	透析技術認定士
数藤 敬一	透析技術認定士
原 俊夫	透析技術認定士
清水 一郎	透析技術認定士
成瀬 裕深	透析技術認定士
中野 正史	透析技術認定士
東根 直樹	透析技術認定士
英 理香	透析技術認定士
来島 政広	透析技術認定士
森 浩章	透析技術認定士
露口 達也	透析技術認定士
鎌田 優	透析技術認定士
田中 悠作	透析技術認定士
相坂 佳彦	透析技術認定士
岡田 大佑	透析技術認定士
西内 陽子	透析技術認定士
大下 千鶴	日本糖尿病療養指導士
西分 延代	日本腹膜透析医学会指導看護師
三宅 直美	六学会合同認定透析療法指導看護師
藤田 都募	医療安全管理者
数藤 康代	六学会合同認定透析療法指導看護師
笹田 真紀	日本腹膜透析医学会指導看護師
新谷 紀子	日本糖尿病療養指導士
西川 雅美	レシピエント移植コーディネーター
数藤 ゆかり	日本腹膜透析医学会指導看護師
石野 聡子	徳島県糖尿病療養指導士
有木 直美	日本腹膜透析医学会指導看護師

川島 周	日本内科学会認定医、日本透析医学会専門医
島 健二	日本内科学会認定医、日本糖尿病学会研修指導医・専門医、日本老年医学会指導医
水口 潤	日本内科学会認定医、日本腎臓学会認定指導医・専門医 日本透析医学会指導医・認定専門医、日本臨床腎移植学会腎移植認定医、日本移植学会移植認定医
深田 義夫	日本外科学会専門医、麻酔標榜医
林 郁郎	日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本神経学会専門医、日本医師会認定産業医
宮本 弘	日本内科学会認定内科医
川原 和彦	日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本小児科学会専門医
土田 健司	日本透析医学会指導医・専門医、日本泌尿器科学会指導医・専門医 日本アフゼリス学会専門医、日本臨床腎移植学会腎移植認定医、日本移植学会移植認定医
本藤 秀樹	日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医
西内 健	日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本高血圧学会指導医
長瀬 教夫	日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本医師会認定産業医 日本人間ドック学会人間ドック健診情報管理指導士
木村 建彦	日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医
西谷 真明	日本泌尿器科学会指導医・専門医、日本透析医学会専門医
長田 淳一	日本内科学会認定医、日本肝臓学会専門医、日本消化器学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
曾根 佳世子	日本消化器学会専門医、日本医師会認定産業医、日本内科学会認定医
小松 まち子	日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分泌学会専門医 日本医師会認定産業医、日本医師会認定健康スポーツ医、日本人間ドック学会人間ドック健診情報管理指導士
宮 恵子	日本内科学会総合内科専門医、日本内分泌学会指導医・専門医、日本消化器学会専門医、日本糖尿病学会専門医 日本甲状腺学会専門医、日本医師会認定産業医
金川 泰彦	日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医
日下 まき	日本医学放射線学会放射線診断専門医
板東 高志	日本口腔外科学会指導医・専門医、摂食介護支援プロジェクト嚥下内視鏡検査マスター
野間 喜彦	日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会専門医、日本臨床検査医学会専門医、日本内科学会研修指導医
高森 信行	日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導士 日本心血管インターベンション治療学会指導医・専門医
橋詰 俊二	日本内科学会専門医、日本循環器学会専門医
岩瀬 俊	日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医
横田 成司	日本泌尿器科学会指導医・専門医、日本透析医学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、泌尿器腹腔鏡技術認定医
横田 綾	日本皮膚科学会専門医
川島 友一郎	摂食介護支援プロジェクト嚥下内視鏡検査マスター
溝口 翔悟	日本泌尿器科学会専門医
志内 敏郎	第一種衛生管理者、医療安全管理者、認定実務実習指導薬剤師、腎臓病薬物療法専門薬剤師
原 恵子	日本糖尿病療養指導士
浜田 久代	日本糖尿病療養指導士、日本病態栄養学会認定病態栄養認定管理栄養士
森 恭子	日本糖尿病療養指導士
松浦 香織	日本糖尿病療養指導士
大西 嘉奈子	日本糖尿病療養指導士、静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士
高松 典通	二級臨床検査士
多田 浩章	超音波検査士（循環器、血管）
山田 真由美	超音波検査士（腹部）
中條 恵子	健康食品管理士

川島 周	徳島大学医学部臨床教授、社会福祉法人徳島県自殺予防協会理事長、全日本病院協会常任理事
島 健二	徳島大学名誉教授、日本糖尿病学会名誉会員、日本臨床化学会名誉会員、日本病態栄養学会評議員、徳島県保険者協議会顧問
水口 潤	日本腹膜透析医学会理事長、日本臨床工学技士会理事、NPO法人日本HDF研究会理事、NPO法人日本アクセス研究会理事、日本臨床腎移植学会監事、日本移植学会評議員、VAIVT研究会世話人、徳島大学医学部腎臓内科臨床教授、四国透析療法研究会副会長、徳島透析医会会長、徳島透析療法研究会会長、とくしま移植医療推進財団理事、日本ハイパフォーマンスメンブレン研究会理事長、日本腎不全栄養研究会顧問
土田 健司	徳島大学医学部臨床教授非常勤講師、NPO法人日本HDF研究会評議員、バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会幹事、日本透析医学会理事、NPO法人日本腹膜透析医学会評議員・監事、NPO法人日本アクセス研究会評議員・理事、日本医工学治療学会評議員、徳島透析療法研究会幹事、徳島透析医会幹事、四国透析療法研究会幹事、二次性副甲状腺機能亢進症に対するPTX研究会世話人、在宅血液透析研究会幹事、高齢者腎不全研究会幹事、日本腎不全栄養研究会幹事、中四国在宅透析研究会幹事、日本次世代人工腎臓研究会世話人
本藤 秀樹	徳島県医師会常任理事、日本脳卒中学会評議員、徳島県立中央病院顧問
西内 健	徳島市医師会心電図判読委員会委員、日本循環器学会四国支部評議員、日本心血管インターベンション治療学会中国四国支部運営委員
長瀬 教夫	独立行政法人国立病院機構東徳島医療センター名誉院長、日本循環器学会四国支部評議員、糖尿病情報学会評議員
小松 まち子	徳島市医師会糖尿病対策委員会委員
宮 恵子	徳島市医師会女性医師プロジェクト委員
野間 喜彦	日本内科学会四国支部評議員、日本糖尿病対策推進会議徳島県担当委員（日本糖尿病学会担当委員、徳島県医師会担当委員）、徳島県医師会糖尿病対策班班長、徳島大学医学部臨床教授、日本糖尿病協会徳島県支部理事、日本糖尿病学会学術評議員、徳島NST研究会幹事、プラス1000歩県民運動促進会会長
板東 高志	徳島大学歯学部臨床准教授
川島 友一郎	徳島県歯科医師会地域保健部常任委員、徳島県歯科医師会医療連携部常任委員
志内 敏郎	日本腎臓病薬物療法学会評議員、徳島腎と薬剤研究会事務局、徳島県病院薬剤師会理事、CKD・DVD薬剤研究会事務局、YMTM（吉野川・美馬・つるぎ・三好）合同薬剤研究会世話人・幹事
原 恵子	徳島NST研究会幹事
松浦 香織	徳島県医療栄養士協議会幹事
多田 浩章	徳島県臨床検査技師会生理検査研究班副班長、徳島心エコー図研究会世話人
榎本 勤	核医学技術学会中四国地方会世話人
猪龍 浩司	徳島CT研究会世話人
赤澤 正義	日本核医学技術学会中四国地方会世話人、徳島核医学研究会世話人
谷 恵理奈	徳島心臓CT・MRI研究会世話人
大石 晃久	徳島県心臓リハビリテーション研究会世話役、日本心臓リハビリテーション学会評議員、日本心臓リハビリテーション学会四国支部幹事
田尾 知浩	一般社団法人徳島県臨床工学技士会副会長、徳島透析療法カンファレンス幹事
竹内 教貴	公益財団法人日本臨床工学技士会Y-ボード委員会中四国地区ブロック代表、公益財団法人日本臨床工学技士会Y-ボード委員会都道府県Y-ボード連絡員徳島県担当、中四国臨床工学技士会連絡協議会若手委員、一般財団法人徳島県臨床工学技士会理事、一般財団法人徳島県臨床工学技士会若手委員会委員長
大下 千鶴	徳島県立総合看護学校准看護学科講師・第一看護学科講師、徳島糖尿病看護研究会幹事、徳島県看護協会ナースバンクプロジェクト委員、徳島県看護協会医療・看護安全対策委員、日本准看護師連絡協議会理事
平野 春美	徳島腎不全看護研究会幹事
西谷 千代子	徳島県立総合看護学校准看護学科講師
数藤 康代	徳島腎不全看護研究会幹事・事務局、徳島透析療法カンファレンス幹事、日本腎不全看護学会透析療法指導看護師徳島県代表
小倉 加代子	徳島CDEJ会世話人
佐藤 裕子	徳島CDEJ会世話人

小倉 加代子	日本糖尿病療養指導士、六学会合同認定透析療法指導看護師、日本腹膜透析医学会指導看護師
三好 友美	心臓リハビリテーション指導士
佐藤 裕子	日本糖尿病療養指導士
福寿 悦子	日本糖尿病療養指導士
近藤 郁	透析技術認定士、徳島県糖尿病療養指導士
近藤 恵	日本腹膜透析医学会指導看護師
松田 幸子	インターベンション エキスパートナース
日根 千鶴	徳島県糖尿病療養指導士
酒井 紘子	日本腹膜透析医学会指導看護師
福永 輝美	透析技術認定士、徳島県糖尿病療養指導士
楮山 祐子	日本糖尿病療養指導士
小谷 明子	日本腹膜透析医学会指導看護師
秋山 和美	レシピエント移植コーディネーター
宮下 めぐみ	日本腹膜透析医学会指導看護師、徳島県糖尿病療養指導士
奥谷 晴美	徳島県糖尿病療養指導士
楨納 幸子	日本腹膜透析医学会指導看護師、日本糖尿病療養指導士
戸田 己記	日本糖尿病療養指導士
木内 雄子	日本腹膜透析医学会指導看護師、徳島県糖尿病療養指導士
小林 晴美	日本糖尿病療養指導士
宮里 依子	日本認知症ケア学会認定認知症ケア専門士
宮島 彰子	診療情報管理士
原 雅子	診療情報管理士
辰己 奈月	診療情報管理士
佐川 裕基	診療情報管理士
木村 明美	診療情報管理士

職員数 2016年4月1日現在 注：（ ）内は2015年4月1日現在

■社会医療法人川島会 常勤職員数合計 505名(471)			
●常勤医師24名(24)	●歯科医師2名(2)	●非常勤医師53名(45)	
●看護師111名(111)	●准看護師26名(26)	●パート看護師2名(1)	●パート准看護師8名(3)
●看護助手66名(64)	●薬剤師10名(11)	●管理栄養士8名(6)	●臨床検査技師8名(9)
●放射線技師10名(11)	●臨床工学技士52名(53)	●理学療法士7名(6)	●歯科衛生士5名(3)
●医事診療情報課32名(26)	●クラーク38名(30)	●総務17名(15)	
●庶務20名(18)	●訪問介護員6名(7)		
■社会福祉法人飛鳥 常勤職員数合計 49名(43)			
●施設長1名(1)	●管理者3名(3)	●介護支援専門職員6名(5)	●看護師4名(3)
●介護職員10名(11)	●生活相談員2名(2)	●栄養士2名(2)	●事務員2名(2)
●サービス提供責任者2名(2)	●訪問介護員15名(10)	●医療ソーシャルワーカー2名(2)	

■一般外来患者延数 46,311名(46,855)

■歯科患者延数 8,029(9,304)

■入院患者延数 31,091名(31,942)

■新入院患者数 1,853名(1,848)

■血液透析患者数			
川島病院	川島透析クリニック	鴨島川島クリニック	鳴門川島クリニック
59名(63)	539名(530)	149名(141)	118名(120)
脇町川島クリニック	阿南川島クリニック	在宅透析	合計
108名(97)	13名(－)	3名(3)	989名(954)

●延べ回数			
川島病院	アフエレーシス	川島透析クリニック	鴨島川島クリニック
13,862回(87,451)	104回(270)	81,598回(6,713)	21,833回(20,752)
鳴門川島クリニック	脇町川島クリニック	阿南川島クリニック	合計
18,009回(17,558)	15,086回(13,565)	287回(－)	150,779回(146,309)

■腹膜透析(CAPD)患者数

HD	PD
●患者数／986名	●患者数／92名
●新規導入数／76名(70)	●新規導入数／18名(26)

■腎移植患者数

●患者数／58名(57)(3月31日現在)

■主要処置・検査件数

●消化器内視鏡／937件(933)●CT／4,031件(3,910)●冠動脈CT／393件(393)●シャントPTA／324件(335)

●腎生検／52件(48)●心カテ・PTCA／295件(397)●RI／487件(634)※うち紹介／350件(452)

●MRI／1,008件(1,025)●心エコー／2,272件(2,124)●骨密度／930件(963)●嚥下内視鏡／35件(28)

■手術件数

●手術総数／1,460件(1,503)●結石破碎／87件(74)●シャントPTA／324件(335)

●ペースメーカー植え込み／21件(20)

■栄養指導件数

●指導件数／2,898件(3,452)

水口 潤	20回バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会特別指定講演	司会	2015.3.7
	第30回ハイパフォーマンス・メンブレン研究会シンポジウム	司会	2015.3.14
	徳島透析療法研究会 学術講演会	座長	2015.3.19
	徳島CKD-MBDカンファランス	座長	2015.5.14
	第14回徳島臓器移植研究会	座長	2015.6.16
	第60回日本透析医学会学術集会シンポジウム、ランチョンセミナー、大会長講演	司会	2015.6.27～28
	徳島透析療法研究会 学術講演会	座長	2015.7.2
	第3回日本腎不全栄養研究会 イブニングセミナー	座長	2015.7.5
	川島病院市民公開講座 特別講演	座長	2015.7.5
	徳島透析療法研究会 学術講演会	座長	2015.7.7
	徳島県高リン血症治療研究会2015 特別講演	座長	2015.7.23
	第19回日本アクセス研究会学術集会 ワークショップ	コメンテーター	2015.9.13
	第21回日本HDF研究会学術集会 ランチョンセミナー	コメンテーター	2015.9.27
	第49回四国透析療法研究会 特別講演	座長	2015.10.4
	第49回四国透析療法研究会 ランチョンセミナー	司会	2015.10.4
	徳島透析療法研究会 腎不全学術講演会	座長	2015.10.15
西内健	徳島県臓器移植普及推進月間公開シンポジウム	司会	2015.10.25
	第21回日本腹膜透析医学会学術総会 高得点演題	座長	2015.11.29
	第46回徳島透析療法研究会学術集会 特別講演	座長	2015.12.6
	臨床循環器病セミナー 一般演題、特別講演	座長	2015.2.18
	Edoxaban Forum in Tokushima 講演	座長	2015.2.20
	生活習慣病フォーラム 講演	座長	2015.3.26
	第13回徳島急性心筋梗塞地域連携研究会 特別講演	座長	2015.4.9
	Prasutrel Forum in Tokushima2015 特別講演	座長	2015.6.11
	第60回日本透析医学会学術集会 ポスターセッション	座長	2015.6.27
	水と塩のバランスを考える学術講演会 一般演題	座長	2015.8.25
	臨床循環器病セミナー 特別講演	座長	2015.11.17
土田健司	第10回災害時情報ネットワーク会議 一般演題	司会	2015.02.17
	第11回災害時情報ネットワーク会議 一般演題	司会	2015.05.12
	第20回バスキュラーアクセスインターベンション(VAIVT)治療研究会 ワークショップ	司会	2015.03.07
	第30回日本ハイパフォーマンスメンブレン研究会 一般演題	司会	2015.03.15
	透析学術講演会 特別講演セッション	司会	2015.03.19
	第13回徳島臨床透析セミナー 特別講演	司会	2015.04.07
	徳島CKD-MBDカンファレンス 総合ディスカッション	司会	2015.05.14
	第60回日本透析医学会学術集会・総会 ワークショップ、委員会企画(学術委員会)	司会	2015.06.27
	PDOPPS施設会議	司会	2015.06.25
	徳島透析療法研究会学術講演会 一般演題	司会	2015.07.02
	第18回在宅血液透析研究会 ランチョンセミナー	司会	2015.07.12
	第9回徳島PDネットワークセミナー	司会	2015.08.09
	第10回クリアランスギャップ研究会 スポンサーセミナー	司会	2015.08.29
	第19回日本アクセス研究会 イブニングセミナー、一般演題	司会	2015.09.12
	第21回日本HDF研究会 一般演題	司会	2015.09.26
川島友一郎	第49回四国透析療法研究会 シンポジウム(JSDT生涯教育)	司会	2015.10.04
	第2回中四国在宅透析研究会 特別講演	司会	2015.10.10
	第46回徳島透析療法研究会 災害	司会	2015.12.06
	第57回全日本病院学会 一般演題	座長	2015.9.12
大下千鶴	第60回日本透析医学会学術集会・総会	座長	2015.6.27
	第49回四国透析療法研究会 一般演題	座長	2015.10.4
平野春美	第48回中四国支部医学検査学会 一般演題	座長	2015.11.7
	第42回日本血液浄化技術学会・学術大会	座長	2015.4.25
	第60回日本透析医学会学術集会・総会	座長	2015.6.26
	第19回日本アクセス研究会学術集会・総会	座長	2015.9.13
多田浩章	第19回日本アクセス研究会学術集会・総会	座長	2015.9.13
	第49回四国透析療法研究会	座長	2015.10.4
	第5回中四国臨床工学会	座長	2015.11.22

編集後記

川島病院に透析室が開設されて40年。
テクノロジーは日々進化していきますが、
今年は拡張現実に興じる者が街に溢れました。
東京オリンピックが開催される4年後には、
我々の日常はどう変化しているのでしょうか。

節目の年に、私自身も不惑の年代に突入し、
奇しくも委員長として最初に行う特集が歯科となりました。
しかし運命のいたずらなのか、体調を崩して、入院やら手術やら。
戸惑いながら、それでも文字を綴る楽しさを感じながら、
本当に多くの人に支えられ、無事に発行することができました。

ありふれた言葉ではありますが、
携わって頂いた皆様へ、心から感謝したいと思います。

川島 友一郎（広報委員長）



■糖尿病教室

平成27年7月3日 「糖尿病について語り合おう」 参加者7名
平成28年2月27日 「糖尿病について語り合おう」 参加者12名

■高血圧教室

平成27年10月30日 「減塩のコツ(外食)」 参加者10名

■リハビリ件数

●個別／14,807件(14,953) ●消炎／3件(13)

- ケアハウスあすか入居者数(延べ実利用者数) 598件(590)
- デイサービスセンター利用者数(延べ) 7,668件(7,313)
- ヘルパーステーション利用者数(延べ実利用者数) 1,050件(1,146)
- 在宅介護支援センター計画件数 2,191件(2,081)
- 相談支援事業 1,034件(849)
- 介護タクシー利用者(延べ) 289件(600)

■治験

- 川島病院 第Ⅲ相試験 3件
第Ⅱ相試験 3件
- 川島透析クリニック 第Ⅲ相試験 1件
第Ⅱ相試験 1件
医療機器 2件

■製造販売後調査

- 川島病院 11件